

0001 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

施工計画を立案する前の事前調査として、最も適切なものはどれか。
ア．契約図書があれば現地調査は原則不要とする
イ．地形・地質・地下水・交通・周辺構造物・施工ヤード等、施工条件に影響する事項を確認する
ウ．施工方法を決定してから初めて地下埋設物を調べる
エ．工期に影響しない事項だけを優先して調査する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。現地固有の条件や図書との差異があり得るため現地確認が必要である。
イ：正しい。施工方法・工程・安全・品質・環境に係る現場条件を施工前に把握する。
ウ：誤り。地下埋設物は施工方法や安全に直結するため事前に確認する。
エ：誤り。工期や安全等に影響する重要事項を優先して把握する。
総合解説：施工計画は現地条件を前提に成立する。設計図書だけでなく、現地・関係機関・既存資料から施工上の制約を洗い出すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0002 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

市街地で掘削工事を行う場合の地下埋設物調査として、最も適切なものはどれか。
ア．図面に記載がなければ埋設物は存在しないと判断する
イ．管理者資料や現地表示を確認し、必要に応じて試掘等で位置・深さを確認する
ウ．掘削機で直接掘り進み、接触してから管理者へ連絡する
エ．埋設物の種類だけ確認し、位置や深さは確認しない

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。図面と現況が一致しない可能性がある。
イ：正しい。既存資料と現地確認を組み合わせ、施工前に位置・深さ・管理者を把握する。
ウ：誤り。損傷・災害防止のため事前確認が必要である。
エ：誤り。施工機械との離隔や防護計画に位置・深さが必要である。
総合解説：埋設物調査では資料照会、現地マーキング、試掘等を組み合わせ、掘削前に施工条件を確定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0003 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

架空線に近接してクレーン作業を行う計画で、施工前に確認すべき事項として最も適切なものはどれか。

ア：クレーンの定格荷重だけ確認すればよい

イ：架空線の種類・位置・高さ・管理者を確認し、必要な離隔・防護・誘導方法を計画する

ウ：架空線の高さは作業開始後にブームで測定する

エ：絶縁被覆が見える場合は接触防止対策を省略する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。揚重能力だけでは感電・接触リスクを管理できない。

イ：正しい。架空線への接触防止には事前の位置確認と作業方法・離隔の設定が必要である。

ウ：誤り。接触事故を招く危険な方法である。

エ：誤り。外観だけで安全を判断せず、必要な防護措置を講じる。

総合解説：令和8年度公式問題でも架空線の現地調査、マーキング、歯止め、ストッパー等の対策が扱われている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0004 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

大型建設機械をトレーラで搬入する工事において、事前調査として最も適切なものはどれか。

ア：現場入口だけ確認し、途中経路の制約は調査しない

イ：道路幅員、曲線半径、橋梁の重量制限、高さ制限、交通規制、搬入口条件等を確認する

ウ：車両総重量に関係なく最短距離の道路を選ぶ

エ：搬入時間帯の交通量は工程に影響しないため調査しない

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。経路上の橋梁・交差点・高さ制限等が障害となる場合がある。

イ：正しい。輸送車両の寸法・重量と経路条件を照合して搬入計画を立てる。

ウ：誤り。重量・幅員・許可条件等を満たす必要がある。

エ：誤り。渋滞や交通規制は搬入時間・安全に影響する。

総合解説：資機材搬入は施工能力に直結するため、経路・許可・交通条件を施工前に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0005 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

河川内工事や土工の施工計画で過去の降雨・出水・気温等を調査する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア：契約工期を短縮する根拠だけを作るため
イ：施工可能日や出水リスク、品質・安全に影響する時期条件を見積もるため
ウ：自然条件は工程に影響しないので統計を保存するためだけ
エ：施工機械の購入価格を決めるため

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。調査目的は工期短縮だけではない。
イ：正しい。自然条件は作業可能日数、安全対策、材料・養生条件等に影響する。
ウ：誤り。降雨・気温・出水は施工条件へ直接影響する。
エ：誤り。機械価格の決定が主目的ではない。
総合解説：施工計画では平均的条件だけでなく、季節変動や異常時を考慮して工程と安全余裕を設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0006 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

深い掘削を既設建物に近接して行う工事で、着工前の周辺構造物調査として最も適切なものはどれか。

ア：工事後の変状だけ確認すればよい
イ：建物の位置・基礎形式・既存ひび割れ等を記録し、必要な変位計測計画を立てる
ウ：建物の用途だけ確認し、基礎形式は調べない
エ：既存ひび割れは工事との因果関係に関係しないため記録しない

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。工事前の状態がなければ変化を評価しにくい。
イ：正しい。近接施工前の初期状態把握は影響評価と計測管理の基準となる。
ウ：誤り。基礎形式は掘削・地下水低下の影響評価に重要である。
エ：誤り。工事前後比較のため記録が必要である。
総合解説：近接施工では既存状態の記録、影響予測、管理値設定、計測を一体で計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0007 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

施工ヤードが狭い都市工事で事前に確認すべき事項として、最も適切なものはどれか。
ア．本体構造物の寸法だけ確認すればよい
イ．資材置場、重機旋回範囲、搬入出勤線、仮設設備、作業員動線の競合を確認する
ウ．資材置場は施工開始後に空いている場所へ随時変更する
エ．重機と歩行者の動線は分離せず同一にする

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。施工空間の確保が必要である。
イ：正しい。狭隘ヤードでは空間競合が工程・安全・生産性へ直結する。
ウ：誤り。荷役・動線・地盤条件を事前に計画する。
エ：誤り。接触災害防止のため可能な限り動線分離を検討する。
総合解説：ヤード調査は仮設配置と施工手順の前提となる。面積だけでなく搬入・旋回・保管・安全動線まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0008 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

ボーリング柱状図では地下水位が深いとされていたが、試掘時に浅い位置で湧水が確認された。施工管理者の対応として最も適切なものはどれか。
ア．既存資料を優先し、湧水は記録しない
イ．現況を記録し、掘削・土留め・排水計画への影響を評価して必要な協議・計画変更を行う
ウ．排水能力を確認せず予定どおり深掘り続ける
エ．工事完成後にだけ発注者へ報告する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。現況は重要な施工情報である。
イ：正しい。現地条件が設計前提と異なる場合は安全・品質・工程への影響を評価する。
ウ：誤り。掘削底面安定や周辺地盤への影響を確認する必要がある。
エ：誤り。施工前または施工中に必要な対応を行う。
総合解説：事前調査は資料を確認するだけでなく、現地で得た情報との整合を確認し、差異を施工計画へ反映する作業である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0009 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

学校に隣接する杭施工の事前調査として、最も適切なものはどれか。
ア：法定基準値だけ確認し、学校の利用時間は考慮しない
イ：周辺施設の利用時間、距離、既存振動、対象工法・機械の発生特性等を確認し対策を検討する
ウ：苦情が発生するまで測定計画を作らない
エ：杭施工の振動は周辺構造物へ影響しないと一律に判断する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。周辺利用状況も施工時間調整等に重要である。
イ：正しい。周辺施設の特性と施工時間・工法を合わせて環境対策を計画する。
ウ：誤り。予防的な計画が必要である。
エ：誤り。地盤・距離・工法によって影響が生じ得る。
総合解説：環境面の事前調査では受音・受振側の条件も把握し、工法・機械・時間帯・計測を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0010 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

施工計画立案時に用地境界や道路使用等の許認可条件を確認する主な理由として、最も適切なものはどれか。
ア：完成後の維持管理だけに関係するため
イ：施工可能範囲・時期・作業方法に制約を与え、工程や仮設配置へ影響するため
ウ：工事原価には影響するが施工手順には影響しないため
エ：許認可は施工者ではなく発注者だけの問題であるため

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。施工段階の制約となる。
イ：正しい。用地・占用・道路使用等は施工可能時間や設備配置を左右する。
ウ：誤り。手順・搬入・交通規制にも影響する。
エ：誤り。受注者側で必要な手続・条件確認が生じる。
総合解説：施工計画では物理的の条件だけでなく、用地・許認可・関係機関協議のリードタイムも工程へ組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0011 施工計画 > 事前調査 | 難易度：応用

支持層深度が工区内で大きく変化する杭基礎工事で、事前調査結果を施工計画へ反映する方法として最も適切なものはどれか。

ア：全杭を同一長さに固定し、支持層確認を行わない

イ：杭長・施工機械・継手計画・支持層確認方法等に変動を見込み、施工記録と地盤情報を照合する

ウ：最も浅い支持層深度だけを採用する

エ：施工中に杭長が不足しても記録せず打止めする

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。支持性能不足を招く可能性がある。

イ：正しい。地盤のばらつきを施工計画と材料・機械準備へ反映する。

ウ：誤り。工区内の変動を無視できない。

エ：誤り。設計条件との差異は記録・確認が必要である。

総合解説：地盤調査は設計だけでなく、施工機械能力、材料手配、施工管理方法の決定にも利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0012 施工計画 > 事前調査 | 難易度：応用

山間部の道路工事で、急斜面・狭隘な搬入路・豪雨・地質変化が主要リスクとして抽出された。施工計画への反映として最も適切なものはどれか。

ア：全リスクが同時に発生しない前提で最短工程だけを採用する

イ：各リスクの発生条件と影響を整理し、代替搬入路、退避基準、法面監視、予備工程等を必要に応じて設定する

ウ：リスク一覧を作成するだけで対応策は決めない

エ：工期へ影響する可能性があっても予備日を一切考慮しない

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。実行可能性が低い計画となる。

イ：正しい。調査結果は施工方法・工程・安全管理の具体的な対策へ落とし込む。

ウ：誤り。重要リスクには予防・軽減・代替策が必要である。

エ：誤り。施工不能日や復旧時間を合理的に見込む必要がある。

総合解説：事前調査の目的は情報収集自体ではなく、施工リスクを把握して計画へ反映することにある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0013 施工計画 > 施工手順 | 難易度：基礎

施工手順を決定する際の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．作業員が希望する順に決めればよい
イ．工種間の前後関係、品質確保、安全、作業空間、資機材投入を考慮して決める
ウ．完成時の状態だけを考え、施工途中の安定は考慮しない
エ．工種間の干渉は施工当日に調整すればよい

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。技術条件を優先する必要がある。
イ：正しい。施工手順は技術的依存関係と現場制約を踏まえて組み立てる。
ウ：誤り。仮設・架設途中など施工段階の安定性も重要である。
エ：誤り。事前調整により待ち・干渉・危険を減らす。
総合解説：施工手順は工程表の基礎であり、品質・安全・生産性を同時に満たす順序を設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0014 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

鉄筋コンクリート構造物の一般的な施工順序として、最も適切なものはどれか。
ア．養生→打込み→鉄筋組立→脱型
イ．基礎面確認→鉄筋・型枠→打込み→締固め→養生→所要強度確認後の脱型
ウ．脱型→型枠設置→コンクリート打込み
エ．打込み→基礎面確認→鉄筋組立

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。打込み前に配筋・型枠を整える。
イ：正しい。各工程の品質確認を行いながら次工程へ進む。
ウ：誤り。型枠撤去は打込み・強度発現後である。
エ：誤り。基礎面・配筋は打込み前に確認する。
総合解説：施工手順は『後から確認できない工程』を意識し、配筋・基礎面等を打込み前に検査できるよう組む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0015 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

橋桁架設で、完成後は安定するが連結前の単独桁は横倒れしやすい。施工手順として最も適切なものはどれか。

ア．完成後に安定するので仮固定は不要とする
イ．架設・仮置き・横構等の連結まで各段階の安定を検討し、必要な仮固定を行う
ウ．強風時でも単独桁を吊ったまま待機する
エ．連結順序は桁の安定に影響しないと判断する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。施工途中が不安定となる場合がある。
イ：正しい。施工段階ごとの構造系を評価して仮設・固定方法を決める。
ウ：誤り。吊荷・仮置き状態での風の影響を考慮する。
エ：誤り。連結によって安定性が変化する。
総合解説：本体構造物でも施工途中は完成系と異なる。施工手順は各ステップの安定性を確認して決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0016 施工計画 > 施工手順 | 難易度：基礎

狭い立坑内で土留支保工、掘削、配管を施工する場合の手順として、最も適切なものはどれか。

ア．支保工を最後にまとめて設置する
イ．掘削深さに応じて支保工を設置し、安定を確認しながら段階的に掘削して配管工程へつなぐ
ウ．掘削と配管を同一位置で無計画に同時作業する
エ．土留変位を確認せず最終深度まで一気に掘削する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。途中深度で土留めが不安定となる。
イ：正しい。掘削進行と支保工設置を連動させる。
ウ：誤り。作業干渉や安全リスクが増える。
エ：誤り。段階施工と計測が必要である。
総合解説：施工手順は仮設構造の成立条件と作業空間を考え、掘削・支保・本体施工を適切に分割する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0017 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

後工程で隠れる基礎底面と鉄筋配置について、施工手順上最も適切なものはどれか。

ア：完成後に掘り返して確認することを前提とする

イ：次工程で不可視となる前に所定の確認・記録を行い、合格後にコンクリートを打ち込む

ウ：写真だけ撮れば規格確認は不要とする

エ：配筋検査は打込み後に行う

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。手戻りが大きく品質確保にも不利である。

イ：正しい。不可視部は次工程へ進む前に確認する。

ウ：誤り。写真は確認の補助手段であり、規格確認自体が必要である。

エ：誤り。打込み後は確認できない。

総合解説：施工手順には検査・立会・記録のタイミングを組み込み、不適合を次工程へ持ち越さない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0018 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

コンクリート打込み能力が40 m³/h、運搬車による供給能力が30 m³/hである。他条件を無視した場合、連続施工の実質能力を支配するものはどれか。

ア：打込み能力40 m³/h

イ：供給能力30 m³/h

ウ：両者の合計70 m³/h

エ：両者の平均35 m³/h

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。供給が追いつかなければ40 m³/hでは継続できない。

イ：正しい。連続工程では最小能力の工程がボトルネックとなる。

ウ：誤り。連続工程の能力を単純加算しない。

エ：誤り。平均ではなくボトルネックが支配する。

総合解説：施工手順と機械編成は各工程の能力バランスを取り、待ち時間や施工中断を抑えるよう計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0019 施工計画 > 施工手順 | 難易度：基礎

コンクリート強度発現待ちや地盤改良材の養生期間を施工手順に組み込む理由として、最も適切なものはどれか。

ア：作業員の待機時間を増やすことだけが目的である

イ：次工程へ進むために必要な性能が得られる時間を確保するため

ウ：工程表の作業数を増やすため

エ：技術的待ち時間は工期に影響しないため

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。性能確保が目的である。

イ：正しい。所要性能未達の状態で荷重を加えると品質・安全上の問題となる。

ウ：誤り。作業数増加が目的ではない。

エ：誤り。待ち時間も工期を構成する。

総合解説：施工手順では実作業時間だけでなく、養生・硬化・沈下待ち等の技術的待ち時間を明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0020 施工計画 > 施工手順 | 難易度：応用

現道を供用しながらボックスカルバートを横断施工する場合の施工手順として、最も適切な考え方はどれか。

ア：全幅を一度に掘削し、交通処理は現場で判断する

イ：交通切替、仮設防護、段階施工、復旧をステップ化し、各段階で通行安全と施工空間を確保する

ウ：交通切替の案内は当日だけ行えばよい

エ：仮設防護施設は施工順序と無関係である

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。通行を維持できず安全性も低下する。

イ：正しい。供用交通と施工を両立するため段階施工を計画する。

ウ：誤り。関係機関協議や事前周知が必要となる。

エ：誤り。各施工段階の安全確保に必要である。

総合解説：供用下施工では『構造物をどう造るか』だけでなく『交通をどう切り替えるか』を一体で手順化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0021 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

施工途中で想定外の湧水が増加し、当初の排水設備能力を超えるおそれがある。最も適切な対応はどれか。

ア：当初計画どおりであることを優先して作業を継続する
イ：作業を安全な状態にし、排水・土留めへの影響を評価して必要な施工手順変更を行う
ウ：湧水量を記録せずポンプ台数だけ増やす
エ：完成後に施工計画書を修正すればよい

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。計画前提が崩れた場合は見直しが必要である。
イ：正しい。条件変化に応じて安全・品質・工程を再評価する。
ウ：誤り。原因・流量・周辺影響を把握する必要がある。
エ：誤り。重要変更は当該施工前に反映する。
総合解説：施工手順は固定されたものではなく、現地条件の変化や計測結果に応じて適切に見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0022 施工計画 > 施工手順 | 難易度：応用

工期短縮のため2作業を並行施工に変更する場合、最も適切な判断はどれか。

ア：作業数を増やせば必ず工期が比例して短縮する
イ：作業空間、重機干渉、品質確認、資源競合、安全上の相互影響を確認して可能な範囲で並行化する
ウ：同一クレーンを必要とする作業でも同時開始する
エ：危険作業が上下で重なる場合も工程優先で実施する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。クリティカル作業や資源制約により短縮効果は限定される。
イ：正しい。並行化は条件を満たす場合に有効で、干渉や資源競合を評価する。
ウ：誤り。資源競合で待ちが発生する。
エ：誤り。安全上不適切な作業重複は避ける。
総合解説：工程短縮では単純な同時施工ではなく、技術的独立性と資源・安全条件を満たす作業を選んで並行化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0023 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：基礎

仮設工事計画の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．特注品だけを用い、他工事への転用は考慮しない
イ．取扱いが容易で安全性を確保し、省力化や転用性も考慮して合理的に計画する
ウ．仮設物は完成物でないため安全性の検討を省略する
エ．資機材不足を前提に必要な強度を小さく設定する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。市販品・規格品の活用や転用性は省力化・経済性に有効である。
イ：正しい。安全・施工性・経済性・転用性を総合して仮設計画を立てる。
ウ：誤り。施工中の安全を支える重要構造物である。
エ：誤り。必要な安全性・性能を確保する。
総合解説：令和8年度公式問題Bでは、仮設工事計画のユニット化、市販品、資機材不足、納期等が直接出題されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0024 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

仮設栈橋の設計で考慮すべき荷重として、最も適切なものはどれか。
ア．建設機械の最大輪荷重は考慮しない
イ．完成後に撤去するため自重だけを考慮する
ウ．自重、建設機械・車両荷重、作業荷重、必要に応じ風・水流等の作用を考慮する
エ．仮設期間が短ければ荷重検討は不要である

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。局所的な支持力・部材応力に重要である。
イ：誤り。施工機械等の荷重が支配する場合がある。
ウ：正しい。使用中に実際に作用する荷重と組合せを考える。
エ：誤り。期間に関係なく必要な安全性を確保する。
総合解説：仮設構造物は使用状態に応じた荷重を設定し、支持地盤・部材・接合部まで一体で安全性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0025 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

工事用道路の計画として、最も適切なものはどれか。
ア．雨天時の排水は完成後に検討する
イ．走行車両が大型でも路面支持力は確認しない
ウ．使用車両の幅・重量・旋回条件、勾配、路面支持力、排水、退避場所等を考慮する
エ．交差点や見通しの悪い箇所の安全対策は不要である

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。施工中から排水が必要である。
イ：誤り。沈下・走行不能等を防ぐため確認が必要である。
ウ：正しい。施工能力と安全を確保できる道路条件を計画する。
エ：誤り。誘導・退避等を検討する。
総合解説：工事用道路は資機材供給のボトルネックにもなり得るため、幅員・勾配・支持力・排水・安全を一体で設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0026 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：応用

深掘削の土留め支保工を計画する際、最も適切なものはどれか。
ア．支保工は掘削完了後にまとめて設置する
イ．最終掘削深度の状態だけを検討する
ウ．掘削段階ごとの土圧・水圧・変位を考慮し、支保工設置時期と計測管理を設定する
エ．地下水位は土留め安定に影響しない

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。掘削進行に応じて設置する。
イ：誤り。途中段階が不安定となる場合がある。
ウ：正しい。施工段階ごとの構造系と地盤・水圧条件を評価する。
エ：誤り。水圧・有効応力に影響する。
総合解説：土留め仮設は段階施工構造であるため、掘削・支保工設置・地下水管理・計測を連動させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0027 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

掘削工事の仮設排水設備について、最も適切な計画はどれか。
ア．ポンプ故障時は掘削内へ貯留すればよい
イ．平常時流入量と同じ能力のポンプ1台だけを必ず採用する
ウ．通常湧水に加え降雨時流入や故障時を考慮し、必要な排水能力・予備設備・電源を検討する
エ．排水先の能力や水質条件は確認しない

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。冠水・地盤不安定化を招く。
イ：誤り。余裕や予備設備が必要となる場合がある。
ウ：正しい。異常時を含む流入量と設備信頼性を考慮する。
エ：誤り。放流条件・排水経路も確認する。
総合解説：重要な仮設設備は単一故障で施工安全を失わないよう、能力余裕・予備・異常時対応を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0028 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

本体工事の工程を作成する際、仮設工事の工程を別に考えず一体で組み込む理由として、最も適切なものはどれか。
ア．仮設設備は施工開始後に即時完成するため
イ．仮設工事は工期に含まれないため
ウ．仮設の設置・盛替え・撤去が本体工事の開始条件や作業可能範囲を左右するため
エ．仮設撤去は完成後なので工程管理対象外であるため

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。設置・検査・切替に時間を要する。
イ：誤り。施工期間内に実施する工程である。
ウ：正しい。仮設は本体施工の前提条件となる。
エ：誤り。撤去・原状回復まで工程に含める。
総合解説：工程計画では本体作業だけでなく、仮設設置・切替・撤去・搬入・試運転等の付帯作業も含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0029 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：基礎

仮設計画で規格品やユニット化された資材を活用する利点として、最も適切なものはどれか。
ア．部材規格を統一すると在庫管理が困難になる
イ．現場ごとの加工量を必ず増加させる
ウ．組立・解体の省力化、品質の均一化、転用性向上が期待できる
エ．安全確認が不要になる

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。標準化は在庫・調達管理にも有利となり得る。
イ：誤り。現場加工の削減を期待できる。
ウ：正しい。標準化・ユニット化は施工効率と転用性の向上に寄与する。
エ：誤り。安全確認は必要である。
総合解説：仮設工事では市販品・規格品を活用し、取扱いやすさと転用性を考慮することが施工の省力化につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0030 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：応用

市街地の深掘削工事で、土留め・覆工板・工事用道路・排水・仮設電力を計画する。最も適切な考え方はどれか。
ア．本体構造物の設計が確定していれば仮設変更は起こらない
イ．仮設ごとに別担当が設計すれば相互干渉の確認は不要である
ウ．各仮設を個別に最適化するだけでなく、荷重、動線、施工順序、切替時期、非常時対応の相互関係を確認する
エ．非常用電源と排水計画は互いに無関係である

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。現場条件・施工手順により仮設は変更され得る。
イ：誤り。空間・荷重・工程の干渉を統合確認する必要がある。
ウ：正しい。複数仮設は同一ヤード・工程で相互依存する。
エ：誤り。停電時の排水継続など相互依存がある。
総合解説：仮設計画は個別設備の寄せ集めではなく、施工システム全体として成立性・安全性・工程を検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0031 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

工程管理の目的として、最も適切なものはどれか。

ア．品質・安全に関係なく最短工期だけを追求する

イ．工事原価だけを把握し、進捗は管理しない

ウ．計画工程と実施工程を比較し、工期内完成に向けて必要な調整を行う

エ．完成後に実績をまとめることだけを目的とする

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。品質・安全等と調整しながら工期を管理する。

イ：誤り。進捗把握が中心的役割である。

ウ：正しい。計画と実績の差を把握し、必要な是正を行うことが工程管理の基本である。

エ：誤り。施工中に継続して行う管理である。

総合解説：国土交通省施工管理基準では、工事内容に応じてネットワークやバーチャート等による適切な工程管理を行うこととしている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0032 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

バーチャート工程表の特徴として、最も適切なものはどれか。

ア．各作業の完了時点を100%として達成度だけを縦軸に表す

イ．作業間の論理的前後関係を矢線だけで表現する

ウ．横軸に時間を取り、各作業の開始・終了時期や所要期間を横線で表現する

エ．工事数量と単価だけを一覧にする

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。ガントチャートの説明に近い。

イ：誤り。これはネットワーク工程表の特徴に近い。

ウ：正しい。バーチャートは作業期間を視覚的に把握しやすい。

エ：誤り。工程表ではない。

総合解説：令和8年度公式問題でもバーチャートの特徴が直接問われている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0033 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

斜線式工程表が特に適する工事として、最も適切なものはどれか。

ア．資材単価だけを比較する工事
イ．単一地点だけで行う短時間の材料試験
ウ．トンネルや道路など、工事区間が線状に長く進行方向が明確な工事
エ．工種の前後関係を一切持たない作業

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。工程管理ではなく原価比較である。
イ：誤り。斜線式の利点を生かしにくい。
ウ：正しい。場所と時間の関係を表しやすく、線状構造物に適する。
エ：誤り。工程表の適用対象として不自然である。
総合解説：令和8年度公式問題では、斜線式工程表はトンネル工事のような線状で一定方向に進む工事に用いられるとされている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0034 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

ガントチャートの特徴として、最も適切なものはどれか。

ア．縦軸に工事区間、横軸に時間をとる線状工事専用の表である
イ．作業の論理関係と余裕時間を明確に計算できることが最大の特徴である
ウ．各作業の完了時点を100%として、横軸に達成度を表す方法である
エ．品質測定値の分布を棒状に表す図である

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。斜線式工程表の説明に近い。
イ：誤り。ネットワーク工程表の特徴である。
ウ：正しい。作業ごとの進捗度合いを比較しやすい。
エ：誤り。ヒストグラムの説明である。
総合解説：工程表は目的によって使い分ける。進捗率把握にはガントチャート、論理関係分析にはネットワーク工程表が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0035 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

ネットワーク式工程表の特徴として、最も適切なものはどれか。

ア：線状工事でしか使用できない

イ：各作業の期間だけ示し前後関係は表せない

ウ：作業間の前後関係を明確にし、全体工期に影響する作業や余裕時間を分析できる

エ：品質測定値のばらつきを管理するための図である

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。多様な工事で使用できる。

イ：誤り。前後関係を明示できる点が特徴である。

ウ：正しい。作業の論理関係とクリティカルパス等を分析できる。

エ：誤り。品質管理図ではない。

総合解説：国土交通省施工管理基準でも、工程管理方法の例としてネットワーク方式が示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0036 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

工程表を作成する際の各作業所要時間の設定方法として、最も適切なものはどれか。

ア：最短実績だけを採用し余裕を一切見込まない

イ：全作業を同じ日数とする

ウ：施工数量、作業能力、稼働率、現場条件、過去実績等を基に設定する

エ：施工数量に関係なく担当者の感覚だけで決める

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。現場条件や不稼働を考慮する必要がある。

イ：誤り。作業内容・数量により所要時間は異なる。

ウ：正しい。実行可能な工程とするため能力・条件を定量的に見積もる。

エ：誤り。客観的根拠が必要である。

総合解説：工程計画では作業量÷実施工能力を基本に、準備・待ち・不稼働等を必要に応じて織り込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0037 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

降雨の影響を受ける土工の工程計画として、最も適切なものはどれか。
ア．雨天日が発生しても工程へ影響しないとする
イ．暦日数をすべて稼働日として計算する
ウ．過去の気象実績や施工時期を参考に、作業不能日を見込んだ実行可能な工程とする
エ．雨天時の代替作業を一切検討しない

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。土工では含水状態等へ影響する。
イ：誤り。実行可能性が低い。
ウ：正しい。自然条件による不稼働を適切に見込む。
エ：誤り。可能であれば代替作業を計画する。
総合解説：工程表の工期は単純な作業日数合計ではなく、作業可能日・休日・季節条件を反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0038 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

予定出来高累計曲線と実績出来高累計曲線を比較したところ、実績曲線が予定曲線を継続して下回っている。最も適切な判断はどれか。
ア．品質が必ず規格外であると判断する
イ．工事が予定より進んでいると判断する
ウ．進捗遅れの可能性があるため、遅延原因と今後の回復可能性を確認する
エ．工程とは無関係なので分析しない

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。工程遅延だけから品質不適合は判断できない。
イ：誤り。予定より出来高が少ない。
ウ：正しい。実績が予定を下回る状態が継続すれば遅延を示す可能性がある。
エ：誤り。進捗管理に有用である。
総合解説：出来高曲線は全体進捗の傾向を把握するのに有効だが、個別作業の遅れ原因は工程表と併せて分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0039 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

施工条件変更により主要作業の期間が変わった場合の工程管理として、最も適切なものはどれか。
ア．変更作業だけ修正し、後続工程への影響は確認しない
イ．当初工程表を最後まで変更せず使用する
ウ．実績と変更条件を反映して工程表を更新し、後続作業や工期への影響を再評価する
エ．工事完成後に初めて工程表を更新する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。前後関係を通じた影響を確認する。
イ：誤り。実態と乖離した工程表では管理できない。
ウ：正しい。工程表は現状を反映した管理基準として維持する必要がある。
エ：誤り。施工中に更新して管理に使う。
総合解説：工程表は提出用の固定書類ではなく、施工状況に応じて見直ししながら進捗管理に使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0040 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

同時期に2作業が同じクレーン1台を必要とする工程になっている。最も適切な対応はどれか。
ア．資源競合は工程へ影響しないとする
イ．両作業を同時開始し、先にクレーンを確保できた方だけ進める
ウ．作業の優先度・余裕時間を確認し、開始時期調整や追加機械の必要性を検討する
エ．両作業の期間を半分にして帳尻を合わせる

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。共通資源の競合は工程遅延要因である。
イ：誤り。待ち時間が発生し工程が不確実となる。
ウ：正しい。資源制約を考慮して実行可能な工程に調整する。
エ：誤り。根拠なく期間を短縮できない。
総合解説：論理上並行可能でも、機械・作業員・ヤード等の資源制約で同時施工できない場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0041 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

製作に12週間必要な特殊支承が、現場据付け工程の開始条件となっている。工程計画として最も適切なものはどれか。
ア：工場製作は現場工程と無関係なので工程表に入れない
イ：据付け前日に発注する
ウ：仕様確定・承認・製作・検査・輸送を逆算し、現場工程と調達工程を一体管理する
エ：納期遅延時も後続工程への影響は評価しない

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。調達完了が現場作業の開始条件となる。
イ：誤り。所要製作期間を満足できない。
ウ：正しい。長納期品は全体工期を支配する可能性がある。
エ：誤り。工程再計算が必要である。
総合解説：工程管理は現場作業だけでなく、設計承認・製作・調達・検査・輸送も含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0042 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

実施工程表の役割として、最も適切なものはどれか。
ア：品質規格値を定める表として用いる
イ：完成後の決算書としてだけ用いる
ウ：工事の施工順序や時期を具体化し、施工中の進捗管理の基準として用いる
エ：安全衛生法令の条文だけを一覧化する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。品質管理基準とは別である。
イ：誤り。施工中に使用する。
ウ：正しい。実施工程表は施工計画を具体的な時間軸へ落とし込んだ管理資料である。
エ：誤り。法令一覧ではない。
総合解説：工程表は作成することが目的ではなく、日々の進捗把握と調整に使用して初めて管理機能を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0043 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

工程表の選定として、最も適切な組合せはどれか。
ア．どの工事でもバーチャート以外を用いてはならない
イ．論理関係分析にはヒストグラム、線状工事には管理図を用いる
ウ．作業間の論理関係分析にはネットワーク式、線状工事の場所と時間の把握には斜線式を用いる
エ．工程表の形式は工事内容に関係なく同一でなければならない

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。国土交通省基準でも複数方式が例示されている。
イ：誤り。品質管理手法であり工程表ではない。
ウ：正しい。工事特性と管理目的に応じて適切な方式を選ぶ。
エ：誤り。管理目的に応じて使い分ける。
総合解説：令和8年度公式問題はネットワーク式・斜線式・ガントチャート等の特徴の区別を重視している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0044 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

ある作業の数量が600 m3、1日当たりの実施工能力が75 m3/日である。準備日等を除き、この作業に必要な施工日数は何日か。
ア．10日：1日60 m3施工できるものとして見積もる案
イ．6日：75 m3/日で合計450 m3まで施工する日数を採る案
ウ．8日：600 m3÷75 m3/日で必要日数を求める案
エ．12日：1日50 m3施工できるものとして見積もる案

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。必要日数より多い。
イ：誤り。75 m3/日で6日では450 m3しか施工できない。
ウ：正しい。600÷75＝8日である。
エ：誤り。必要日数より多い。
総合解説：作業期間は施工数量と実施工能力を基に算定し、必要に応じ準備・移動・不稼働を追加する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0045 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：基礎

ネットワーク工程表におけるクリティカルパスについて、最も適切なものはどれか。
ア．最も工事費が高い作業だけを結んだ経路である
イ．最も作業数が少ない経路を必ずいう
ウ．全体工期を支配する作業経路で、通常は余裕時間が最も小さい経路である
エ．品質試験だけを結んだ経路である

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。工事費とは直接関係しない。
イ：誤り。作業数ではなく所要時間と余裕で決まる。
ウ：正しい。クリティカルパス上の遅延は全体工期へ直接影響しやすい。
エ：誤り。工程上の論理関係で決まる。
総合解説：クリティカルパスを把握すると、重点的に管理すべき作業と短縮対象を明確にできる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0046 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

開始から完了までの3経路の所要時間が、A経路18日、B経路22日、C経路20日である。全ての作業が論理どおり進む場合、クリティカルパスはどれか。
ア．C経路
イ．A経路
ウ．B経路
エ．A経路とC経路

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。20日でB経路より短い。
イ：誤り。18日で余裕がある。
ウ：正しい。最長の22日を要するB経路が全体工期を支配する。
エ：誤り。最長経路ではない。
総合解説：単純なネットワークでは開始から終了までの最長所要時間経路がクリティカルパスとなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0047 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：基礎

作業のトータルフロートについて、最も適切なものはどれか。
ア．工事費の予備費を表す
イ．作業員の休憩時間の合計を表す
ウ．品質試験の測定誤差を表す
エ．後続工程や全体工期を遅らせずに、その作業を遅らせることができる最大余裕時間を表す

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。原価指標ではない。
イ：誤り。工程上の余裕時間である。
ウ：誤り。品質統計の指標ではない。
エ：正しい。全体工期に対する作業の時間的余裕を示す。
総合解説：フロートを把握することで、資源移動や作業開始時期の調整余地を判断できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0048 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

クリティカルパス上の作業が3日遅れ、他の作業短縮や経路変更がない場合、一般に全体工期へどのような影響があるか。
ア．品質管理だけに影響する
イ．全体工期は必ず3日短縮する
ウ．余裕時間が十分あるので全体工期には影響しない
エ．全体工期も3日遅れる可能性が高い

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。工程へ直接影響する。
イ：誤り。遅延により短縮はしない。
ウ：誤り。クリティカル作業は余裕が小さい。
エ：正しい。クリティカル作業には通常余裕がなく、その遅延が工期へ直結する。
総合解説：遅延対策ではまず遅れた作業がクリティカルかどうかを確認し、全体工期への影響を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0049 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

トータルフロートが5日ある非クリティカル作業から、作業員を2日間だけクリティカル作業へ応援させる案がある。最も適切な考え方はどれか。
ア：資源移動は工程短縮に利用できない
イ：フロートに関係なく全作業員を移す
ウ：非クリティカル作業は無期限に遅らせてよい
エ：当該作業の遅れが余裕時間内に収まるか確認し、全体工期に影響しない範囲で資源を移す

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。適切な資源再配分は短縮策となり得る。
イ：誤り。元の作業がクリティカル化する可能性がある。
ウ：誤り。余裕には限度がある。
エ：正しい。余裕時間を資源配分へ活用できる。
総合解説：フロートは単なる余り時間ではなく、資源平準化・重点作業への応援など工程調整に利用できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0050 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：応用

工期を2日短縮する必要がある。短縮対象を選ぶ考え方として、最も適切なものはどれか。
ア：品質確認工程を無条件で削除する
イ：余裕時間が最も大きい非クリティカル作業だけを短縮する
ウ：全作業を一律2日短縮する
エ：クリティカルパス上で短縮可能な作業を優先し、追加費用や安全・品質への影響も比較する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。必要な品質確認を省略してはならない。
イ：誤り。余裕内の短縮は全体工期に影響しない場合がある。
ウ：誤り。作業ごとの短縮可能性が異なる。
エ：正しい。全体工期短縮にはクリティカル作業の短縮が有効である。
総合解説：工程短縮はクリティカルパスを基準に、増員・機械増強・工法変更・並行化等を費用とリスクを含めて比較する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0051 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：応用

非クリティカル作業が大幅に遅れ、トータルフロートを使い切った場合に考えられることとして、最も適切なものはどれか。

ア．ネットワーク工程表を更新する必要はない

イ．当初のクリティカルパスは工事完成まで絶対に変化しない

ウ．全体工期は必ず短縮する

エ．その作業を含む経路が新たなクリティカルパスになる可能性がある

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。最新情報を反映して再計算する。

イ：誤り。工程条件が変われば経路も変化する。

ウ：誤り。遅延は工期延長要因となる。

エ：正しい。進捗や作業期間の変化によってクリティカルパスは移動し得る。

総合解説：クリティカルパスは当初計画の固定情報ではなく、実績を反映した工程更新により継続確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0052 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：応用

開始後にA作業6日とB作業8日を並行して実施し、両方完了後にC作業5日を行う。開始からC完了までの最短所要日数は何日か。

ア．8日：並行作業Bの完了時点だけを全体工期とする計算

イ．11日：A作業6日とC作業5日だけを直列に加える計算

ウ．19日：A・B・Cをすべて直列作業として加える計算

エ．13日：並行するA・Bの長い8日後にC作業5日を加える計算

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。C作業の期間を含んでいない。

イ：誤り。A6日 + C5日のみを計算している。

ウ：誤り。AとBを直列として合計している。

エ：正しい。並行作業は長いBの8日が支配し、その後C5日なので13日である。

総合解説：並列作業の後続作業は、必要な先行作業がすべて完了してから開始するため、最長側の完了時刻が支配する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0053 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

アロー型ネットワーク工程表におけるダミー作業について、最も適切なものはどれか。
ア．クリティカルパスを隠すために用いる
イ．実作業より長い所要時間を必ず設定する
ウ．工事費を表すための作業である
エ．所要時間や資源を伴わず、作業間の論理的な前後関係を正しく表すために用いる

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。論理表現を明確にするために用いる。
イ：誤り。所要時間はゼロとして扱う。
ウ：誤り。費用作業ではない。
エ：正しい。ダミーは論理関係を表す仮想作業である。
総合解説：ネットワーク工程表では作業順序を正しく表すことが重要で、ダミーは必要な論理関係の表現に使われる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0054 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：応用

同じ全体工期となるクリティカルパスが2本存在する工程について、最も適切な管理方針はどれか。
ア．一方が遅れても他方が同じなので工期は変わらない
イ．どちらか一方だけ管理すればよい
ウ．クリティカルパスが2本ある場合は全作業に大きな余裕がある
エ．両方の経路を重点管理し、いずれの遅延も全体工期へ影響し得ることを考慮する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。最長経路がさらに長くなれば工期延長となる。
イ：誤り。どちらの遅延も全体工期に影響し得る。
ウ：誤り。むしろ短縮余地が限定される場合がある。
エ：正しい。複数経路が同時に工期を支配している。
総合解説：複数のクリティカルパスがある工程は遅延リスクが高く、短縮策も複数経路へ配慮する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0055 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：基礎

進捗管理として、最も適切なものはどれか。
ア．予定工程表を変更しないことを最優先する
イ．工事終了時にだけ実績を集計する
ウ．進捗率が低くても原因は調査しない
エ．計画と実績を定期的に比較し、差異の原因を分析して必要な是正を行う

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。実態に応じて工程を更新する。
イ：誤り。施工中に継続して実施する。
ウ：誤り。遅延原因を把握する必要がある。
エ：正しい。比較・分析・是正を繰り返す管理である。
総合解説：令和8年度公式問題でも、工程管理の統制機能として計画と実施の比較、進捗報告が示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0056 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

工程遅延が発生した場合の初動として、最も適切なものはどれか。
ア．工程表上の予定日だけ書き換えて遅れを消す
イ．全作業員を無条件に増員する
ウ．原因分析をせず休日作業を追加する
エ．遅延作業、遅延日数、原因、後続作業への影響、クリティカル性を確認する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。実際の遅延は解消されない。
イ：誤り。資源追加が有効でない作業もある。
ウ：誤り。対策の効果・安全・費用を検討する必要がある。
エ：正しい。原因と全体工期への影響を把握して対策を選ぶ。
総合解説：遅延対策は『遅れている』という結果ではなく、原因とクリティカルパスへの影響を特定してから実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0057 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

遅延作業へ作業員を増員する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．機械能力がボトルネックでも人員増だけで必ず解消する
イ．人数を2倍にすれば所要時間は必ず半分になる
ウ．狭い作業場所ほど無制限に増員する
エ．作業空間、機械能力、作業分担を考慮し、増員が実際の施工能力向上につながるか確認する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。機械能力が支配する場合は機械側の対策が必要である。
イ：誤り。人員と能力は単純比例しない場合が多い。
ウ：誤り。干渉・安全性低下により生産性が落ちることがある。
エ：正しい。生産性は作業空間・機械・分業可能性に制約される。
総合解説：工程短縮ではボトルネックを特定し、増員・増機・工法変更等から有効な手段を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0058 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：応用

当初直列としていた2作業について、技術的には一部を並行施工できることが判明した。工期短縮策として最も適切なものはどれか。
ア．上下作業が重なっても安全対策なしで実施する
イ．前工程の品質確認を省略して全面並行化する
ウ．図面未確定でも後工程を完成させる
エ．安全・品質・作業空間・情報確定範囲を確認し、可能な区間だけ並行化する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。危険な作業重複は避ける。
イ：誤り。必要な確認工程は維持する。
ウ：誤り。手戻りリスクが高い。
エ：正しい。前後関係を見直し、安全に並行可能な範囲で短縮する。
総合解説：並行化は有効な短縮策だが、前工程情報の未確定や作業干渉による手戻り・安全リスクを評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0059 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：応用

主要作業が5日遅れ、現状のままでは工期超過が見込まれる。回復工程の作成として最も適切なものはどれか。

- ア：非クリティカル作業だけを短縮する
- イ：全作業を機械的に5日ずつ短縮する
- ウ：工期を超過する予定のまま工程表だけ完成日に合わせる
- エ：最新実績でネットワークを再計算し、短縮可能なクリティカル作業と必要資源を特定して回復計画を作る

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。全体工期が変わらない場合がある。
イ：誤り。短縮可能性や論理関係を無視している。
ウ：誤り。実行可能な計画ではない。
エ：正しい。現在のクリティカルパスを基準に具体的な回復策を組む。
総合解説：回復工程は現況を起点に再計算し、効果が工期へ反映される作業へ対策を集中する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0060 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

長納期資材の納入が1週間遅れることが判明した。最も適切な工程対応はどれか。

- ア：資材未着でも据付け完了として進捗計上する
- イ：現場作業を全て停止する
- ウ：納入遅延を工程表へ反映しない
- エ：当該資材を必要としない作業への振替、代替調達、後続作業の順序変更等を検討し、全体工期影響を最小化する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。実態と異なる進捗管理となる。
イ：誤り。影響のない作業まで停止する必要はない。
ウ：誤り。最新情報で工程を更新する。
エ：正しい。資材制約と作業前後関係を確認し、可能な代替作業を活用する。
総合解説：調達遅延では待つだけでなく、作業順序変更や代替資材・調達先の可能性を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0061 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

工事全体の出来高率は予定どおりだが、クリティカル作業だけが遅れている。最も適切な判断はどれか。

ア：ネットワーク工程表は確認しなくてよい

イ：出来高率が予定どおりなので工期遅延は絶対にない

ウ：非クリティカル作業の出来高をさらに増やせば必ず解消する

エ：全体出来高が予定どおりでも工期遅延の可能性があるので、クリティカル作業を重点管理する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。論理関係と余裕を確認する。

イ：誤り。工期を支配する作業の遅れが重要である。

ウ：誤り。工期短縮につながらない場合がある。

エ：正しい。出来高の大きさと工期支配性は一致しないことがある。

総合解説：進捗管理では全体出来高とクリティカルパスの両方を見る必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0062 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：応用

工期遅延回復のため夜間施工・増員・機械増強を組み合わせる案が出た。採用前の評価として最も適切なものはどれか。

ア：増員すれば作業空間の制約はなくなる

イ：短縮日数だけで採用を決める

ウ：夜間施工では品質管理を省略する

エ：短縮効果に加え、品質、安全、騒音、作業員疲労、許認可、追加費用を確認する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。空間制約は残る。

イ：誤り。品質・安全・環境等との両立が必要である。

ウ：誤り。施工時間帯に関係なく所要品質を確保する。

エ：正しい。工程短縮策は他の管理目標への影響を含めて評価する。

総合解説：工程管理の改善機能は、工期だけでなく品質・原価・安全等を再調整して基本計画へフィードバックする考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0063 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

土木工事における品質管理の目的として、最も適切なものはどれか。
ア．規格外データを記録から除外する
イ．試験回数をできるだけ増やすこと自体を目的とする
ウ．工期短縮だけを優先する
エ．契約図書に定められた品質規格を安定して満足する工事目的物を施工すること

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。規格外結果も記録し原因分析・是正を行う。
イ：誤り。試験は目的達成のための手段である。
ウ：誤り。品質確保と工程・安全等を調整する。
エ：正しい。品質管理は要求品質を確保するために材料・施工・試験結果を管理する。
総合解説：国土交通省施工管理基準は、工期とともに工事目的物の出来形・品質規格の確保を目的としている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0064 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

品質管理における『品質特性』として最も適切なものはどれか。
ア．契約金額の支払日だけ
イ．作業員の出勤時刻だけ
ウ．工事事務所の機の配置だけ
エ．工事目的物や材料の品質を評価するために測定・確認する強度、密度、厚さ等の特性

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。契約事務事項である。
イ：誤り。品質特性そのものではない。
ウ：誤り。工事目的物の品質評価項目ではない。
エ：正しい。要求品質を数値・状態として評価できる特性をいう。
総合解説：品質特性は工種ごとに異なり、材料品質、施工結果、性能を適切に表す測定項目を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0065 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

施工管理基準における規格値について、最も適切なものはどれか。
ア．工程表上の作業日数を表す値である
イ．平均値だけが満足すれば個々の測定値は無関係である
ウ．施工者が工事完成後に自由に決める値である
エ．測定・試験した各実測値が満足すべき品質・出来形上の基準である

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。品質・出来形の基準である。
イ：誤り。各実測値の規格適合が必要である。
ウ：誤り。設計図書や管理基準等で定められる。
エ：正しい。国土交通省基準では各実測値が規格値を満足することを求めている。
総合解説：規格値と管理目標値は区別する。規格値は合否の基準、管理目標値は工程を安定させるためにより厳しく設定する場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0066 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

道路舗装の品質管理における測定対象・品質特性・試験方法の組合せとして適切なものはどれか。
ア．路床―支持力―空気量試験
イ．アスファルト混合物―針入度―スランプ試験
ウ．コンクリート―圧縮強度―CBR試験
エ．路盤―締固め度―現場密度測定

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。空気量試験はコンクリートに用いる。
イ：誤り。スランプ試験はコンクリートのコンシステンシーを評価する。
ウ：誤り。CBRは主に土・路床等の支持力評価に用いる。
エ：正しい。路盤の締固め状態は現場密度等で評価する。
総合解説：令和8年度公式問題でも測定対象・品質特性・試験方法の対応関係が直接出題されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0067 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

品質特性に下限規格値だけが定められている場合の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．規格値は品質判定に用いない
イ．測定値が下限規格値以下であることを確認する
ウ．平均値だけが下限値以上なら個々の値は問わない
エ．測定値が下限規格値以上であることを確認する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。品質判定の基準となる。
イ：誤り。合否方向が逆である。
ウ：誤り。基準で各値の適合を求める場合は個々の値も確認する。
エ：正しい。下限規格は必要最低値を示す。
総合解説：品質特性には上限・下限・両側規格があり、何を大きくすべきか小さくすべきかを理解して判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0068 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

品質管理で、規格値ぎりぎりを狙うのではなく余裕を持った管理目標を設定する利点として、最も適切なものはどれか。
ア．平均値を規格外に設定できる
イ．規格値を無視してよくなる
ウ．試験を行わなくてよくなる
エ．工程のばらつきを考慮して規格外発生を予防しやすくなる

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。規格適合を安定して確保するのが目的である。
イ：誤り。規格値は満足する必要がある。
ウ：誤り。必要な品質確認は行う。
エ：正しい。工程変動を見込み規格外となる前には正ししやすい。
総合解説：品質管理は完成後の合否判定だけではなく、施工中に異常傾向を早期検知し規格外を予防する活動である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0069 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

品質測定値の平均が目標値と一致していても、ばらつきが非常に大きい工程について、最も適切な判断はどれか。

ア：測定数を減らせばばらつきは解消する

イ：平均が一致しているので完全に安定している

ウ：ばらつきは品質へ影響しない

エ：規格外が発生するリスクがあるため、ばらつきの原因を分析して工程を安定させる必要がある

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。工程そのものの変動原因を改善する必要がある。

イ：誤り。規格限界を超える値が生じる可能性がある。

ウ：誤り。品質の均一性・不良率に関係する。

エ：正しい。平均位置と散らばりは別の品質情報である。

総合解説：統計的品質管理では中心傾向だけでなく、ばらつきと時間的变化を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0070 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

品質試験で1つの実測値が規格値を外れた。最も適切な対応はどれか。

ア：測定・試験条件を確認し、不適合範囲と原因を調査して必要な是正・再確認を行う

イ：平均値が良ければ当該値を削除する

ウ：記録用紙だけ修正して規格内にする

エ：原因調査をせず同じ施工を継続する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。規格外は事実として記録し、原因・影響範囲を評価して処置する。

イ：誤り。恣意的なデータ除外は不適切である。

ウ：誤り。実測結果を改ざんしてはならない。

エ：誤り。再発防止のため原因分析が必要である。

総合解説：国土交通省施工管理基準では各実測値が規格値を満足することが求められる。不適合時は原因と影響範囲を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0071 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

コンクリート強度のばらつきが大きくなった場合、原因候補として最も合理的な組合せはどれか。
ア．材料、配合、計量、練混ぜ、運搬、打込み、養生、供試体作製・試験条件
イ．現場事務所の照明だけ
ウ．完成写真のファイル名だけ
エ．工事看板の色だけ

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。材料・製造・施工・試験の各段階が強度変動へ影響し得る。
イ：誤り。主要な強度変動要因ではない。
ウ：誤り。品質特性の原因分析にはならない。
エ：誤り。強度変動と直接関係しない。
総合解説：品質変動の原因分析では、人・機械・材料・方法・測定・環境等の観点から工程全体を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0072 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

現場の測定値が規格値を満足しにくい場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．施工条件・品質変動の原因を見直し、必要な場合は設計図書等に基づく正式な協議を行う
イ．施工者が規格値を緩和して合格とする
ウ．測定位置を良好な箇所だけに変更する
エ．不合格データを削除して再計算する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。規格値は現場都合で変更できず、工程改善や正式手続が必要である。
イ：誤り。施工者が恣意的に変更できない。
ウ：誤り。測定基準に従う必要がある。
エ：誤り。データ改ざんとなる。
総合解説：品質管理の信頼性は、定められた規格・測定基準を一貫して適用することで確保される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0073 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

締固め度は全て規格内だが、直近6回の測定値が連続して低下している。最も適切な対応はどれか。
ア．規格外となる前に材料含水比、層厚、転圧条件等の変化を確認する
イ．全て規格内なので傾向は無視する
ウ．次に規格外が出るまで何もしない
エ．測定頻度を下げて低下傾向を見えにくくする

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。連続的な傾向は工程条件の変化を示す可能性がある。
イ：誤り。予防管理では傾向を早期に検知する。
ウ：誤り。規格外の予防が品質管理の目的である。
エ：誤り。測定を減らすことは原因改善にならない。
総合解説：管理限界内でもランやトレンド等の非ランダムなパターンがあれば工程異常を疑う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0074 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：応用

施工管理の管理区分と対象の組合せとして、最も適切なものはどれか。
ア．工程管理―施工時期・進捗、出来形管理―寸法・位置、品質管理―強度・密度等
イ．工程管理―圧縮強度、出来形管理―作業員配置、品質管理―完成日
ウ．工程管理―塩化物量、出来形管理―工事費、品質管理―休日数
エ．工程管理・出来形管理・品質管理は全て同じ対象だけを管理する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。各管理区分は相互に関連しつつ主な対象が異なる。
イ：誤り。各項目の管理区分が入れ替わっている。
ウ：誤り。管理対象が不適切である。
エ：誤り。それぞれ異なる側面を管理する。
総合解説：国土交通省施工管理基準は施工管理を工程管理、出来形管理、品質管理等で構成している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0075 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：基礎

品質試験の実施時期について、国土交通省施工管理基準に沿う考え方はどれか。
ア．施工と並行して速やかに実施し、結果を施工管理へ反映する
イ．工事完成後に全試験をまとめて行う
ウ．規格外の可能性がある場合は試験を延期する
エ．試験結果は施工中に確認しない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。施工中に結果を得て工程改善・是正へ反映する。
イ：誤り。完成後では予防管理に利用できない。
ウ：誤り。所定の試験基準に従う。
エ：誤り。速やかな品質管理が必要である。
総合解説：施工管理基準では測定・試験等を施工と並行して速やかに実施することを求めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0076 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：基礎

品質試験結果の取扱いとして、最も適切なものはどれか。
ア．結果をその都度管理図表等に記録し、適切に保管して必要時に提示できるようにする
イ．合格値だけを記録する
ウ．工事完成後に記憶を頼りにまとめる
エ．規格外結果は廃棄する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。測定結果は施工中に記録・管理する。
イ：誤り。全ての必要な結果を記録する。
ウ：誤り。リアルタイムな管理にならない。
エ：誤り。不適合も重要な品質情報である。
総合解説：国土交通省基準では試験結果をその都度記録し、監督職員の請求に速やかに提示し、完成時に提出する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0077 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

品質管理基準で試験区分が『必須』となっている試験項目について、原則として最も適切なものはどれか。

- ア．基準の適用条件に従って実施する
- イ．施工者の判断だけで全て省略できる
- ウ．規格値が厳しい場合だけ実施する
- エ．完成後の外観が良ければ不要となる

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。現行施工管理基準では『必須』試験は基準に従って実施する。

イ：誤り。任意に省略できない。

ウ：誤り。試験区分に従う。

エ：誤り。外観だけでは品質を確認できない項目がある。

総合解説：品質管理では試験項目・試験方法・試験基準を確認し、工種・規模等に応じた所定の管理を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0078 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

材料の品質試験用試料を採取する方法として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．対象ロットを代表するよう、定められた方法・位置・頻度で採取する
- イ．品質が良さそうな箇所だけ選ぶ
- ウ．不良が疑われる箇所を必ず除外する
- エ．採取位置を記録しない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。試験結果の信頼性には代表性のあるサンプリングが必要である。

イ：誤り。結果に偏りが生じる。

ウ：誤り。恣意的な除外は品質実態を反映しない。

エ：誤り。トレーサビリティのため記録する。

総合解説：品質試験は試験機の精度だけでなく、試料採取の代表性と識別管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0079 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

品質検査に用いる測定機器の管理として、最も適切なものはどれか。
ア：必要な精度を確保できるよう、点検・校正状態を確認して使用する
イ：表示値が出れば校正履歴は不要である
ウ：測定範囲を超えて使用しても精度は変わらない
エ：故障履歴は試験結果の信頼性に関係しない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。測定機器の信頼性は試験結果の信頼性に直結する。
イ：誤り。校正・点検状態を管理する必要がある。
ウ：誤り。適用範囲外では精度を保証できない。
エ：誤り。異常時は過去結果への影響も確認する。
総合解説：測定の品質を確保するには、方法・試料・機器・測定者・環境条件を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0080 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

施工後に見えなくなる鉄筋配置や基礎底面の管理として、最も適切なものはどれか。
ア：次工程で隠れる前に検査し、必要な出来形・品質状況を記録・写真管理する
イ：完成後に外観だけ確認する
ウ：写真を撮れば寸法確認は不要とする
エ：不可視部は施工者の記憶だけで管理する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。不可視となる前の確認と記録が重要である。
イ：誤り。完成後には確認できない。
ウ：誤り。写真と実測・検査は目的が異なる。
エ：誤り。客観的な記録が必要である。
総合解説：写真管理基準は施工段階、完成後明視できない箇所、出来形寸法、品質管理状況等の記録を対象としている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0081 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：応用

レディーミクストコンクリートの受入れ時、スランブが指定値から大きく外れた。最も適切な対応はどれか。

ア：試験方法・試料採取を確認し、規定に基づき受入れ可否を判断して必要な処置を行う

イ：現場で自由に加水して指定値へ合わせる

ウ：試験記録を残さずそのまま打ち込む

エ：強度試験が後日あるのでスランブ結果は無視する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。受入れ試験結果を基に規定に沿って判定する。

イ：誤り。無断加水は配合・品質を変える。

ウ：誤り。品質管理記録が必要である。

エ：誤り。フレッシュ性状も受入れ品質の重要項目である。

総合解説：令和8年度公式問題でもJIS A 5308に準拠した受入れ検査としてスランブ・空気量・塩化物量・圧縮強度の判定が扱われている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0082 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

品質試験で異常値が得られたため再試験を行う場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：初回結果を消去せず、試料・試験機・試験手順等を確認し、再試験の理由と結果を記録する

イ：再試験が合格なら初回結果を削除する

ウ：合格するまで何度でも試験して最後の値だけ採用する

エ：異常値の原因は調べない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。データのトレーサビリティを保ち、異常原因を確認する。

イ：誤り。初回結果も品質情報として残す。

ウ：誤り。恣意的な選択は不適切である。

エ：誤り。再発防止のため原因分析が必要である。

総合解説：再試験は不合格を消すためではなく、測定・試験の異常や品質実態を確認するために実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0083 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

品質管理基準に試験頻度が定められている場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．工種・施工量・ロット等に応じて定められた頻度で試験し、対象範囲との対応を明確にする
イ．最初の1回が合格なら以後全て省略する
ウ．良好な結果が続く場合は施工者判断だけで頻度をゼロにする
エ．試験結果と施工箇所を対応付けない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。どの施工範囲を代表する結果が明確にして管理する。
イ：誤り。基準に従った継続確認が必要である。
ウ：誤り。所定手続なく省略できない。
エ：誤り。トレーサビリティが失われる。
総合解説：品質試験は点の測定結果を施工ロットへ結び付けて評価するため、頻度・位置・時期の管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0084 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：応用

盛土の現場密度試験で締固め度が徐々に低下していることが判明した。品質管理として最も適切な対応はどれか。
ア．含水比、敷均し厚、転圧回数・速度、材料変化等を確認し、次の施工へ条件修正を反映する
イ．完成時の平均値だけで判定するため施工中は何もしない
ウ．密度試験を中止して傾向を見えなくする
エ．規格外になるまで同じ施工条件を続ける

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。試験結果を工程へフィードバックして規格外を予防する。
イ：誤り。施工中の品質管理機能を失う。
ウ：誤り。測定を止めても品質は改善しない。
エ：誤り。傾向段階で原因を確認する。
総合解説：品質管理は試験と施工を別々に行うのではなく、結果を施工条件へ反映する管理サイクルである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0085 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：基礎

ヒストグラムから把握しやすい情報として、最も適切なものはどれか。
ア．測定値の分布形状、中心位置、ばらつき、規格値との関係
イ．作業の前後関係とクリティカルパス
ウ．施工位置の平面座標
エ．資材搬入車両の運行経路

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。度数分布を棒状に表し、分布の形や散らばりを視覚化する。
イ：誤り。ネットワーク工程表で分析する。
ウ：誤り。測量・出来形情報である。
エ：誤り。運搬計画で管理する。
総合解説：ヒストグラムは品質測定値の分布を一括して把握する手法で、時間順の変化を見る管理図とは役割が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0086 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：基礎

管理図を用いる主な目的として、最も適切なものはどれか。
ア．測定値を時間順に追跡し、工程が統計的に安定しているか異常傾向を検出する
イ．完成構造物の数量を積算する
ウ．工事原価の内訳だけを整理する
エ．測量成果を図面化する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。管理限界と測定値の時系列パターンから工程異常を検出する。
イ：誤り。数量計算手法ではない。
ウ：誤り。原価管理表ではない。
エ：誤り。測量図ではない。
総合解説：令和8年度公式問題では、UCL・CL・LCLを用いた管理図から工程の異常を判定する問題が出題されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0087 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

管理図の管理限界と製品の規格限界の違いとして、最も適切なものはどれか。
ア：管理限界は工程の変動状態を判断する線で、規格限界は品質要求への適合を判定する基準である
イ：両者は常に同じ値でなければならない
ウ：管理限界を外れても工程異常の可能性はない
エ：規格限界は工程の偶然変動だけから自動的に決まる

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。管理限界と規格値は目的・決定方法が異なる。
イ：誤り。一致する必要はない。
ウ：誤り。管理限界外は特別原因を疑う重要なシグナルである。
エ：誤り。規格は設計・契約上の要求等で決まる。
総合解説：管理図上で工程が安定していても規格を満足するとは限らず、逆に全点規格内でも工程に異常傾向がある場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0088 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

管理図で全測定点が管理限界内にあるが、9点連続して中心線より上側に並んでいる。最も適切な判断はどれか。
ア：工程平均が変化した可能性があるため、特別原因の有無を調べる
イ：管理限界内なので必ず完全に安定している
ウ：測定値を中心線へ書き換える
エ：上側に並ぶほど品質が必ず良いので分析不要である

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。長いランはランダム変動だけでは説明しにくい異常パターンである。
イ：誤り。限界内でも非ランダムな並びは異常シグナルとなる。
ウ：誤り。データを書き換えてはならない。
エ：誤り。品質特性によって大きいほど良いとは限らない。
総合解説：令和8年度公式問題でも、管理限界内に点があっても中心線片側への偏りや境界線付近への集中から異常を判断する考え方が出題されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0089 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

品質測定値が管理限界内であっても、7回連続して上昇している。最も適切な対応はどれか。
ア：設備摩耗、材料変化、温度変化等の系統的要因を確認する
イ：管理限界を超えるまで分析しない
ウ：上昇値を削除して傾向を消す
エ：測定頻度をゼロにする

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。連続上昇・下降は工程条件が一方向へ変化している可能性を示す。
イ：誤り。規格外・限界外の前に予防的に確認する。
ウ：誤り。データ改変は不適切である。
エ：誤り。原因把握ができなくなる。
総合解説：統計的品質管理では、限界超過だけでなくトレンド・ラン・周期性等のパターンも監視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0090 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

工程Aと工程Bの品質特性の平均値はともに100である。標準偏差がAは2、Bは6である場合、ばらつきについて最も適切なものはどれか。
ア：Aの方がBよりばらつきが小さい
イ：Bの方がAよりばらつきが小さい
ウ：平均値が同じなのでばらつきも同じである
エ：標準偏差からばらつきは比較できない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。標準偏差が小さいほど測定値は平均周辺へ集中する傾向がある。
イ：誤り。Bの標準偏差が大きい。
ウ：誤り。平均とばらつきは別の指標である。
エ：誤り。標準偏差はばらつきの代表的指標である。
総合解説：工程比較では平均値だけでなく標準偏差等の散らばり指標も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0091 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：応用

工程が統計的に安定しているものの、測定値のばらつき幅が規格幅より大きい。最も適切な判断はどれか。
ア：工程は安定していても規格を安定して満足する能力が不足しているため、ばらつき低減等が必要である
イ：安定しているので規格外は絶対に発生しない
ウ：管理限界を広げれば工程能力が向上する
エ：規格値を施工者が広げれば品質改善となる

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。統計的安定と規格適合能力は別に評価する必要がある。
イ：誤り。ばらつきが規格幅を超えれば不適合が発生し得る。
ウ：誤り。管理限界の見かけを変えても工程変動は改善しない。
エ：誤り。規格変更は工程改善ではない。
総合解説：工程能力は安定した工程のばらつきと規格幅の関係を評価する概念で、工程改善では平均位置とばらつきの両方を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0092 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：応用

舗装密度の管理図で上昇傾向が続き、ヒストグラムでは分布が上限規格側へ偏っている。最も適切な対応はどれか。
ア：施工条件の変化を調査し、規格外となる前に転圧条件等を調整して、その後のデータで効果を確認する
イ：現在は規格内なので何もしない
ウ：上限規格側のデータだけ削除して分布を中央へ戻す
エ：管理図を作り直して中心線を実測値へ合わせるだけで対応完了とする

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。時間的傾向と分布位置を併せて工程異常を予防的に是正する。
イ：誤り。傾向から近い将来の規格外を予防する必要がある。
ウ：誤り。データ除外では工程は改善しない。
エ：誤り。原因を改善し、是正効果を確認する必要がある。
総合解説：統計的品質管理では管理図で時間変化、ヒストグラムで分布を確認し、異常原因の除去と効果確認まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0093 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：基礎

国土交通省の出来形管理の基本として、最も適切なものはどれか。
ア．完成後の外観だけを見て可否を判断する
イ．出来形管理基準に定める測定項目・測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録する
ウ．平均値だけを求め、個々の実測値は記録しない
エ．施工者が測定項目を自由に削除する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。寸法・位置・高さ等の実測管理が必要である。
イ：正しい。出来形は所定の測定項目・測定基準に従って実測し、設計値と実測値を対比して管理する。
ウ：誤り。各実測値の記録と規格適合確認が必要である。
エ：誤り。基準によりがたい場合等は監督職員との協議が必要である。
総合解説：出来形管理は、工事的物が設計どおりの形状・寸法・位置に施工されているかを客観的に確認する管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0094 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

出来形管理基準で『延長40mにつき1箇所』測定すると定められている工種があり、施工延長が105mであった。必要測定箇所数として適切なものはどれか。
ア．2箇所：105÷40の小数部を切り捨てる考え方
イ．3箇所：105÷40の小数部を切り上げる考え方
ウ．4箇所：40mごとの測定に端部1点を別途追加する考え方
エ．5箇所：おおむね20mごとに測定する考え方

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。105÷40=2.625であり、小数点以下を切り上げる必要がある。
イ：正しい。『○○につき1箇所』は小数点以下を切り上げるため3箇所となる。
ウ：誤り。必要数を超えている。
エ：誤り。基準から算出される必要数ではない。
総合解説：令和8年度版施工管理基準では、測定箇所数が『○○につき1箇所』となっている項目は小数点以下を切り上げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0095 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

構造物の高さを出来形測定する前の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．最も近い任意の地物を標高基準として使用する
イ．使用する基準点の位置・標高・保存状態を確認し、必要に応じて照査してから測定する
ウ．基準点が移動していても設計値だけで補正する
エ．測量機器が正常なら基準点確認は不要である

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。確定した基準点を使用する必要がある。
イ：正しい。基準点の誤りは全測定値へ系統的な誤差を与えるため、事前確認が重要である。
ウ：誤り。移動の有無を確認し、適切な基準へ復旧・照査する。
エ：誤り。測量機器と基準点の両方が適正である必要がある。
総合解説：出来形測定では測定機器だけでなく、基準点・測定位置・測定方法の正確性が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0096 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：基礎

完成後に埋戻しで見えなくなる基礎幅を管理する場合、最も適切な測定時期はどれか。
ア．完成検査後に掘り返して測定する
イ．埋戻し前に測定・記録する
ウ．埋戻し後に地表から推定する
エ．測定せず設計値を実測値として記録する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。不要な手戻りを生じる。
イ：正しい。不可視となる前に出来形を実測し、必要な記録を残す。
ウ：誤り。直接測定できる段階で確認する。
エ：誤り。実測して記録する必要がある。
総合解説：出来形管理は次工程で確認できなくなる部分を事前に測定することが重要で、写真管理とも連動する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0097 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

長い構造物の出来形測定箇所を選ぶ方法として、最も適切なものはどれか。
ア．出来形が良好に見える箇所だけを選ぶ
イ．管理基準に定められた測定基準に従い、対象全体を代表できる所定の箇所で測定する
ウ．測定しやすい端部だけで全区間を代表させる
エ．規格外が出そうな箇所は測定対象から除く

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。恣意的な選定では実態を評価できない。
イ：正しい。測定位置は基準に従い、偏りのない管理を行う。
ウ：誤り。所定の測点・頻度を満足する必要がある。
エ：誤り。不適合の隠蔽につながる。
総合解説：出来形測定は施工者に都合の良い箇所を選ぶのではなく、定められた基準に従って実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0098 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

ICT施工で3次元データを用いた出来形管理を行う場合、最も適切なものはどれか。
ア．3次元データを使えば基準点や座標系の確認は不要である
イ．所定の3次元計測技術を用いた出来形管理要領等に従い、3次元空間上で形状を管理する
ウ．点群データは出来形管理に使用できない
エ．3次元管理では規格値の確認を行わない

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。座標系・基準点の整合は重要である。
イ：正しい。令和8年度版施工管理基準は、3次元データによる出来形管理を所定要領に基づいて行うとしている。
ウ：誤り。3次元計測技術の一つとして点群等を利用できる。
エ：誤り。所要の出来形性能を確認する。
総合解説：3次元出来形管理は測定を省略する仕組みではなく、面的・高密度な計測を適切な基準で管理する方法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0099 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：応用

出来形測定で1点だけ周囲と大きく異なる値が得られた。最も適切な初動はどれか。
ア：異常値を削除して平均値だけ残す
イ：測点位置、機器設定、基準点、読取り、施工状態を確認して再測定し、測定誤差か実施工の不適合か切り分ける
ウ：最初から施工不良と断定して構造物を撤去する
エ：再測定せず設計値を記入する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。恣意的なデータ除外は不適切である。
イ：正しい。測定系と施工実態の双方を確認し、原因を特定する。
ウ：誤り。測定ミスの可能性も含めて確認する。
エ：誤り。実測結果を置き換えてはならない。
総合解説：異常値が出た場合は、測定誤差・記録誤り・施工不適合を区別して処置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0100 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

出来形管理基準により測定した実測値の判定について、最も適切なものはどれか。
ア：全体平均が規格内なら個々の規格外値を無視する
イ：各実測値が規格値を満足していることを確認する
ウ：最大値だけが規格内なら合格とする
エ：施工者が現場で規格値を変更してよい

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。個々の実測値の適合確認が必要である。
イ：正しい。令和8年度版施工管理基準は各実測値がすべて規格値を満足することを求めている。
ウ：誤り。全実測値が対象となる。
エ：誤り。規格値は恣意的に変更できない。
総合解説：出来形判定では平均値だけでなく、定められた各実測値の規格適合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0101 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：基礎

出来形管理図表を作成する主な目的として、最も適切なものはどれか。
ア．工事費の内訳だけを整理する
イ．設計値と実測値を対比し、施工結果を体系的に記録・管理する
ウ．作業員の出勤表として使用する
エ．施工機械の燃料使用量だけを管理する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。原価管理資料ではない。
イ：正しい。出来形管理図表は測定結果を設計値と比較して整理する。
ウ：誤り。労務管理資料ではない。
エ：誤り。機械管理表ではない。
総合解説：出来形管理図表は測定値の規格適合と施工全体の傾向を確認できる記録である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0102 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：応用

同一契約内で複数地域に施工箇所が点在している工事の出来形管理として、最も適切なものはどれか。
ア．全施工箇所を合計して1箇所だけ測定する
イ．原則として施工箇所ごとに測定基準を設定し、これにより難しい場合は監督職員と協議する
ウ．最も大きい施工箇所だけを測定する
エ．点在工事では出来形管理を省略する

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。各施工箇所の出来形を適切に確認する必要がある。
イ：正しい。令和8年度版施工管理基準は点在工事について施工箇所ごとの測定基準設定を原則としている。
ウ：誤り。他の施工箇所も管理対象である。
エ：誤り。出来形管理は必要である。
総合解説：施工箇所が離れている場合でも、各箇所の品質・出来形を独立して適切に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0103 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

令和8年度版写真管理基準の工事写真分類に含まれるものとして、最も適切な組合せはどれか。
ア．給与明細写真・勤怠写真・私有車写真・広告写真
イ．施工状況写真・使用材料写真・品質管理写真・出来形管理写真
ウ．気象衛星写真だけ
エ．完成写真だけで他の写真区分はない

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。写真管理基準の分類ではない。
イ：正しい。工事写真には施工状況、安全管理、使用材料、品質管理、出来形管理、災害等の区分がある。
ウ：誤り。工事写真の体系ではない。
エ：誤り。施工中の各種記録も対象となる。
総合解説：工事写真は施工管理の手段として、施工段階・不可視部・材料・品質・出来形等を記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0104 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

工事写真撮影時の小黒板に記載する必要事項として、写真管理基準に示されているものはどれか。
ア．施工管理者の私有車番号だけ
イ．工事名、工種等、測点、設計寸法、実測寸法、略図
ウ．工事費の総額だけ
エ．作業員全員の住所と生年月日

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。写真管理基準の必要事項ではない。
イ：正しい。必要事項を判読できるよう被写体とともに写し込む。
ウ：誤り。撮影対象を特定する情報ではない。
エ：誤り。不要な個人情報である。
総合解説：写真は後から『どこで、何を、どの設計寸法に対し、いくつ測ったか』が分かるよう記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0105 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：標準

埋戻し後に見えなくなる構造物の出来形写真として、最も適切なものはどれか。
ア．完成後の地表面だけ撮影する
イ．埋戻し前に、測定箇所と出来形寸法が確認できるよう撮影する
ウ．寸法が読めない遠景写真だけ撮影する
エ．不可視部は写真管理対象外とする

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。埋戻し後には内部寸法を確認できない。
イ：正しい。写真管理基準は不可視となる出来形部分について寸法が確認できるよう特に注意して撮影するとしている。
ウ：誤り。出来形確認に必要な情報が不足する。
エ：誤り。むしろ重要な撮影対象である。
総合解説：不可視部写真は施工状態の証拠となるため、位置と寸法が判読できる状態で撮影する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0106 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：標準

工事写真の編集について、最も適切なものはどれか。
ア．規格外部分を消す程度の編集は認められる
イ．写真の信憑性を考慮し、原則として写真編集は認められない
ウ．小黑板を写し忘れた場合、画像へ自由に追記すればよい
エ．出来形値を見やすくするため数値を書き換えてよい

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。施工実態を改変する編集は認められない。
イ：正しい。写真管理基準は信憑性確保のため写真編集を認めていない。
ウ：誤り。所定の小黑板情報電子化を除き自由な追記はできない。
エ：誤り。記録改ざんとなる。
総合解説：工事写真は施工記録としての信頼性が重要で、画像内容を後から変える運用は行わない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0107 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

出来形管理写真を省略できる場合として、令和8年度版写真管理基準に示されているものはどれか。
ア．規格外箇所の写真だけ
イ．不可視部の写真すべて
ウ．完成後も測定可能な部分について、工種ごとに1回、出来形管理状況が分かる写真を撮影した後の写真
エ．施工者が多忙な場合の全写真

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。不適合記録を省略する理由にはならない。
イ：誤り。不可視部は重要な撮影対象である。
ウ：正しい。完成後測定可能な部分では工種ごとに1回撮影し、その後の出来形管理写真を省略できる。
エ：誤り。多忙は省略理由ではない。
総合解説：写真管理は必要な証拠性を確保しつつ、基準に基づく合理的な省略も認められている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0108 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：標準

監督職員または現場技術員が臨場して段階確認した箇所の出来形管理写真について、写真管理基準に沿うものはどれか。
ア．臨場しても出来形管理写真の省略は一切できない
イ．必ず通常の2倍の写真を撮影する
ウ．出来形管理写真の撮影を省略でき、臨場時の状況写真も不要である
エ．臨場者の顔写真だけを保存する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。所定条件で省略できる。
イ：誤り。そのような規定はない。
ウ：正しい。令和8年度版写真管理基準に明記されている。
エ：誤り。出来形確認の記録として不適切である。
総合解説：写真省略は任意ではなく、基準に定められた条件に基づいて行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0109 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

使用材料の写真管理として、最も適切なものはどれか。
ア．材料の種類が違っても1枚の遠景写真だけで済ませる
イ．材料を全て施工した後に空の置場だけ撮影する
ウ．使用前に形状寸法・使用数量・保管状況等が確認できる写真を各品目ごとに所定頻度で撮影する
エ．品質証明がない材料ほど写真を省略する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。各品目の識別・確認ができる記録が必要である。
イ：誤り。使用前の材料状態を記録する必要がある。
ウ：正しい。写真管理基準では使用材料について形状寸法・数量・保管状況等を管理する。
エ：誤り。品質確認をより慎重に行う必要がある。
総合解説：材料写真は『何を使ったか』だけでなく、使用前の状態・保管・品質証明との対応を示す記録となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0110 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

工事写真だけでは撮影位置が分かりにくい場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．ファイル名を『写真1』とするだけでよい
イ．位置が分からないまま提出する
ウ．撮影位置図、平面図、構造図等の見取り図を参考図として作成する
エ．位置情報は工事写真に不要である

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。位置特定情報として不十分である。
イ：誤り。後から撮影箇所を特定できない。
ウ：正しい。写真管理基準は撮影位置が分かりにくい場合に見取り図の作成を求めている。
エ：誤り。施工記録のトレーサビリティに必要である。
総合解説：写真と位置情報を対応させることで、完成後も施工箇所を追跡できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0111 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：応用

出来形管理表では基礎幅2.00mと記録されているが、同じ測点の写真ではスケールが1.90m付近を示している。最も適切な対応はどれか。
ア：写真の画像を編集して2.00mに見せる
イ：管理表の数値を優先し写真を削除する
ウ：測点・写真・原測定記録を照合し、記録誤りか測定誤りか施工不適合かを確認して正式に訂正・処置する
エ：差異を無視して完成書類を提出する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。写真編集は認められない。
イ：誤り。証拠資料を恣意的に削除してはならない。
ウ：正しい。記録間の不整合は原因を確認し、トレーサビリティを保って処理する。
エ：誤り。出来形の信頼性が確保できない。
総合解説：出来形管理では測定表・写真・原記録の整合性が重要で、不一致は原因を明確にして処置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0112 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：基礎

出来形測定値が規格値を外れた場合の基本対応として、最も適切なものはどれか。
ア：規格外値だけを削除して平均を再計算する
イ：測定値を設計値へ書き換える
ウ：不適合を記録し、原因・影響範囲を確認して必要な是正や協議を行う
エ：完成後まで報告しない

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。恣意的なデータ除外は不適切である。
イ：誤り。記録改ざんとなる。
ウ：正しい。規格外を事実として扱い、原因と影響を確認して処置する。
エ：誤り。施工中に適切な対応を行う必要がある。
総合解説：不適合管理では、発見→隔離・影響抑制→原因分析→是正→再確認→記録という流れが基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0113 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

規格外値が出たため再測定を行ったところ、同じ箇所でも再び規格外となった。最も適切な対応はどれか。

- ア：2回目の結果を削除する
- イ：合格値が出るまで測定位置を変え続ける
- ウ：測定誤差だけでは説明できないため、施工状態を確認して不適合処置を検討する
- エ：設計値を実測値として採用する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。データ隠蔽となる。
イ：誤り。測定基準に反する。
ウ：正しい。再現性のある規格外は施工実態の不適合を疑い、原因と修正方法を検討する。
エ：誤り。実測管理ではない。
総合解説：再測定は合格値を探すためではなく、測定誤りか実際の不適合かを確認するために行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0114 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

同じ種類の出来形不良が繰り返し発生している。是正処置として最も適切なものはどれか。

- ア：測定頻度を減らす
- イ：不良箇所だけ毎回補修し原因は調べない
- ウ：個々の不良を直すだけでなく、施工手順・基準出し・機器・教育等の根本原因を分析して再発防止する
- エ：規格値を緩める

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。不良を見つけにくくするだけである。
イ：誤り。同じ不良が再発する可能性が高い。
ウ：正しい。是正処置は再発原因を取り除くことが重要である。
エ：誤り。品質改善にならない。
総合解説：単発の修正と再発防止の是正処置を区別し、繰り返し不適合では工程原因へ対策する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0115 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：応用

同一日に同じ型枠基準で施工した5ブロックのうち1ブロックで高さ不適合が見つかった。最も適切な対応はどれか。
ア：不適合箇所の記録を破棄する
イ：発見した1ブロックだけ補修し他は確認しない
ウ：当該ブロックだけでなく、同じ基準・機器・施工条件で施工した他ブロックも影響範囲として確認する
エ：同じ施工条件なら他ブロックは必ず正常と判断する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。トレーサビリティを失う。
イ：誤り。共通原因の見落としにつながる。
ウ：正しい。共通原因がある場合は同一条件で施工した範囲へ影響が及ぶ可能性がある。
エ：誤り。むしろ共通原因を疑う必要がある。
総合解説：不適合処置では『どこまで影響しているか』をロット・施工日・機器・班等から追跡する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0116 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：基礎

出来形不適合箇所を補修した後の対応として、最も適切なものはどれか。
ア：再測定は行わず写真だけ削除する
イ：補修した事実だけで合格とする
ウ：補修後に再測定・確認し、規格適合と補修記録を残す
エ：補修前の記録を廃棄する

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。出来形の実測確認が必要である。
イ：誤り。補修結果の確認が必要である。
ウ：正しい。是正の有効性を確認してから適合と判断する。
エ：誤り。経緯を追跡できるよう記録を残す。
総合解説：是正は処置を実施しただけでは完了せず、再確認によって要求事項を満足したことを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0117 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：応用

完成直前に、施工で使⽤した仮BMの標⾼設定が20mm誤っていたことが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア：20mm程度なら記録を修正して終了する
- イ：最後に測った1箇所だけ再測定する
- ウ：その仮BMを使⽤した全ての関連出来形を対象に影響を調査し、必要な再測定・是正を行う
- エ：写真に写っていなければ問題ないとする

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。規格・構造機能への影響を確認する必要がある。
 - イ：誤り。影響範囲を限定できない。
 - ウ：正しい。基準点の誤りは共通の系統誤差として広範囲に影響する可能性がある。
 - エ：誤り。出来形性能の問題である。
- 総合解説：共通基準の誤りは個別測定ミスより影響範囲が大きいため、関連施工全体を追跡する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0118 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

現場製作したプレキャスト部材の一部が寸法不適合となった。誤使用防止のため最も適切な対応はどれか。

- ア：識別表示を外して先に使用する
- イ：外観が似ていれば適合品と同じ場所に置く
- ウ：不適合品を識別・隔離し、使用可否が決定するまで適合品と混在させない
- エ：検査記録だけ削除する

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。不適合品を無断使用してはならない。
 - イ：誤り。取り違えの危険がある。
 - ウ：正しい。不適合品の誤使用・誤出荷を防ぐため識別と隔離が必要である。
 - エ：誤り。不適合そのものは解消しない。
- 総合解説：不適合管理では物理的な識別・隔離と記録上のステータス管理を合わせて行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0119 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

実測値が規格値をわずかに外れたが、構造性能への影響は小さいと施工者が考えている。最も適切な対応はどれか。

ア：写真を撮らなければ不適合ではない

イ：差が小さいので測定値を書き換える

ウ：施工者判断だけで適合扱いせず、設計図書・規定に基づいて必要な協議・処置を行う

エ：規格外量が小さければ自動的に合格とする

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。写真の有無と適否は別である。

イ：誤り。データ改ざんである。

ウ：正しい。規格外の扱いは正式な手続きに基づき判断する。

エ：誤り。規格値を外れた事実を適切に扱う必要がある。

総合解説：不適合の受入れ可否は品質・性能・契約条件を踏まえて正式に判断し、記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0120 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：応用

重要構造物で出来形不適合が見つかり、補修に4日必要となった。後続工程は当該箇所の完了が開始条件である。最も適切な対応はどれか。

ア：出来形問題なので工程表は変更しない

イ：工程遅延を避けるため不適合のまま後続工程を施工する

ウ：是正計画と再確認を行うとともに、工程表を更新して後続工程・工期への影響と回復策を検討する

エ：補修日数を工程表上だけ0日にする

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。開始条件が変わるため工程へ影響する。

イ：誤り。不適合を次工程へ持ち越してはならない。

ウ：正しい。不適合処置は品質だけでなく工程へ影響するため一体管理する。

エ：誤り。実行可能な工程管理にならない。

総合解説：品質・出来形・工程は独立ではなく、不適合が後続作業へ与える影響まで管理する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0121 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：基礎

工事材料の受入れ時に確認すべき事項として、最も適切なものはどれか。
ア．使用後に初めて品質証明書を確認する
イ．納入車両の色だけ確認する
ウ．数量だけ確認し規格は確認しない
エ．品名・規格・数量・外観・品質証明書等が設計図書や発注内容と一致しているか確認する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。使用前に適合性を確認する必要がある。
イ：誤り。材料品質とは関係しない。
ウ：誤り。規格適合が重要である。
エ：正しい。材料受入では仕様適合、数量、損傷、品質証明等を確認する。
総合解説：材料受入は不適合材料を施工へ流さない最初の管理点である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0122 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：基礎

使用材料の品質証明について、最も適切なものはどれか。
ア．材料名が同じなら製造ロットや規格は確認しない
イ．品質証明があれば現物の損傷確認は不要である
ウ．品質証明書は工事完成後に破棄する
エ．JISマーク表示や品質証明書等を確認し、使用材料の品質・規格を確認する資料として管理する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。同名称でも規格・ロット等が異なる場合がある。
イ：誤り。輸送損傷や数量等の現物確認も必要である。
ウ：誤り。工事記録として適切に保管する。
エ：正しい。品質証明は材料適合性を確認する重要資料である。
総合解説：写真管理基準でも使用材料の品質証明（JISマーク表示）や検査実施状況を記録対象としている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0123 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

プレキャストコンクリート製品の受入れ時に角欠けとひび割れが見つかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．使用後に損傷写真を撮る
- イ．納品書があれば無条件で使用する
- ウ．ひび割れを塗料で隠して受け入れる
- エ．損傷位置・程度を確認して記録し、規格・使用可否を判断するまで使用を保留する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。受入時の状態を記録する。
イ：誤り。納品書だけでは現物品質を保証できない。
ウ：誤り。損傷原因・影響を評価する必要がある。
エ：正しい。現物損傷は品質・耐久性に影響するため使用前に評価する。
総合解説：材料受入では書類確認と現物確認を組み合わせ、不適合材料の誤使用を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0124 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

鉄筋材料を複数ロット受け入れる場合の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．使用後にロット番号を推定する
- イ．全ロットを混在させ、品質証明との対応をなくす
- ウ．径が同じなら鋼種は確認しない
- エ．ミルシート等の品質証明と現物の規格・ロットを対応付け、使用箇所を追跡できるよう管理する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。受入時から識別管理する。
イ：誤り。トレーサビリティが失われる。
ウ：誤り。鋼種・規格も確認が必要である。
エ：正しい。品質証明と使用箇所を結び付けることで不具合時に追跡できる。
総合解説：材料のロット管理は不適合発生時の影響範囲特定にも重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0125 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

受入れた骨材について品質証明の内容と現物の状態に疑義があり、粒度や含水状態も通常と異なる。
最も適切な対応はどれか。

- ア：試験結果が出る前にコンクリートへ使用する
- イ：納入業者が問題ないと言えば試験せず使用する
- ウ：疑義のある材料だけ先に使い切る
- エ：使用前に必要な確認・試験を行い、適合性が確認できるまで使用を保留する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。施工後に取り返しがつかない場合がある。
イ：誤り。客観的な品質確認が必要である。
ウ：誤り。不適合リスクを拡大する。
エ：正しい。品質に疑義がある場合は適合確認が優先される。
総合解説：受入検査では書類と現物が一致しない場合に、その原因を確認してから使用可否を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0126 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：基礎

材料受入時に数量を確認する主な理由として、最も適切なものはどれか。

- ア：搬入経路の許可を不要にするため
- イ：品質規格の確認を省略するため
- ウ：材料試験を不要にするため
- エ：発注数量・納入数量・在庫・使用予定を整合させ、不足や誤納入を早期に把握するため

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。輸送許可等とは別の管理である。
イ：誤り。品質確認は別途必要である。
ウ：誤り。数量確認と品質試験は目的が異なる。
エ：正しい。数量管理は施工計画・在庫・調達へ直接影響する。
総合解説：材料管理は品質だけでなく、数量・納期・在庫を工程と連動させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0127 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

指定材料が納期遅延となり、同等と思われる別メーカー品を使用したい。最も適切な対応はどれか。
ア．変更記録を残さない
イ．現場代理人の判断だけで即日変更する
ウ．色が同じなら同等品とみなす
エ．性能・規格を確認し、設計図書や契約条件に基づく必要な承認・協議を経ってから使用する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。変更履歴を記録する必要がある。
イ：誤り。無断変更は不適切である。
ウ：誤り。外観だけでは性能を判断できない。
エ：正しい。材料変更は所要性能を確認し正式な手続に従う。
総合解説：代替材料は工程対策として有効な場合があるが、品質・耐久性・適合規格を確認したうえで使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0128 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

レディーミクストコンクリート受入れ時の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．納入書は施工後に廃棄する
イ．運搬車が到着すれば試験せず直ちに打ち込む
ウ．現場で任意に加水してから受入判定する
エ．配合・納入書を確認し、所定のスランプ・空気量・温度等の受入れ試験を必要に応じて実施する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。品質記録として管理する。
イ：誤り。所定の受入れ管理が必要である。
ウ：誤り。任意加水は配合を変える。
エ：正しい。注文内容と納入内容、フレッシュ性状等を確認する。
総合解説：材料受入と品質試験は連続した管理であり、使用前に要求品質を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0129 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

外径が同じ2種類の鋼材を現場で使用する場合、取り違い防止として最も適切なものはどれか。
ア．使用直前に作業員の記憶で判断する
イ．外径が同じなら混在させる
ウ．表示札を受入直後に外す
エ．規格・材質・ロットが識別できる表示を維持し、保管場所も区分する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。客観的な表示で管理する。
イ：誤り。誤使用のリスクが高い。
ウ：誤り。識別情報を保持する必要がある。
エ：正しい。外観が似た材料ほど明確な識別管理が重要である。
総合解説：材料識別は適合材の誤使用防止に直結し、ロット追跡にも必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0130 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：応用

注文した規格と異なる材料が納入されたが、工程が逼迫している。最も適切な対応はどれか。
ア．納品書を注文規格に書き換える
イ．工程優先で先に使用し後から承認を得る
ウ．品名が似ていれば使用する
エ．適合性が確認されるまで識別・隔離して使用を止め、返品・交換または正式な変更手続きを行う

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。記録改ざんとなる。
イ：誤り。無断使用は品質・契約上の問題となる。
ウ：誤り。規格適合を確認する必要がある。
エ：正しい。不適合材料を施工へ流さないことが優先される。
総合解説：工程遅延を避けるために品質確認を省略すると、後の撤去・再施工による損失がより大きくなる可能性がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0131 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

複数品目の材料を受け入れた際の記録方法として、最も適切なものはどれか。

ア．品質証明書だけ残して現物確認記録を作らない

イ．全品目の書類を混在させ識別番号を付けない

ウ．材料写真だけ残して品質証明書を捨てる

エ．各品目の品質証明書、検査記録、材料写真、納入ロットを対応付けて保管する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。現物状態・数量等の確認も必要である。

イ：誤り。トレーサビリティが失われる。

ウ：誤り。品質証明は重要な記録である。

エ：正しい。後から使用材料と証明資料を追跡できるようにする。

総合解説：使用材料写真は品質証明等の記録と対応させることで証拠性が高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0132 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：応用

主要材料の納入が遅れ、代替品候補があるが品質証明の確認に2日必要である。最も適切な判断はどれか。

ア．材料遅延は工程表へ反映しない

イ．工程優先で品質確認前に使用する

ウ．品質確認を省略し納期だけで選ぶ

エ．工程影響を評価しつつ、品質確認・承認が完了する前には使用せず、代替作業や調達計画も検討する

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。実行可能な工程へ更新する必要がある。

イ：誤り。不適合材料使用のリスクがある。

ウ：誤り。品質・性能確認が必要である。

エ：正しい。品質適合と工程対策を両立させる。

総合解説：材料管理は品質・工程・調達の接点であり、どれか一つを犠牲にするのではなく統合的に判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0133 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：基礎

建設機械を選定する際の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．現場条件は考慮しない
イ．最大型機械を常を選ぶ
ウ．購入価格だけで決める
エ．作業内容、施工数量、地盤、作業空間、必要能力、安全性等に適した機種を選ぶ

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。作業空間や地盤が機械運用へ影響する。
イ：誤り。大型機械が狭隘地や軟弱地盤に適するとは限らない。
ウ：誤り。施工能力・安全・燃費等も考慮する。
エ：正しい。機械能力と現場条件の適合が重要である。
総合解説：機械選定は単体能力だけでなく、前後工程との能力バランスを含めて行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0134 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

掘削機能力が120m³/h、運搬能力が80m³/h、敷均し能力が100m³/hの土工作業で、全体能力を支配する工程はどれか。
ア．掘削
イ．運搬
ウ．敷均し
エ．3工程の平均

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。120m³/hで最小ではない。
イ：正しい。連続工程では最小能力80m³/hの運搬がボトルネックとなる。
ウ：誤り。100m³/hで運搬より大きい。
エ：誤り。平均ではなく最小能力の工程が全体を制約する。
総合解説：機械編成では各工程能力を均衡させ、待ち時間を減らすことが生産性向上につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0135 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

油圧ショベルの作業開始前点検として、最も適切なものはどれか。
ア．ブレーキや警報装置は施工能力に関係ないため確認しない
イ．異音があっても作業量を優先して使用する
ウ．点検は故障後だけ行う
エ．油漏れ、作動状態、警報装置、足回り、周囲安全等を確認し異常があれば使用を止める

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。安全機能の確認は必要である。
イ：誤り。重大故障や事故につながる可能性がある。
ウ：誤り。予防保全が重要である。
エ：正しい。機械異常を作業前に発見し事故・故障を予防する。
総合解説：機械管理では故障後の修理だけでなく、日常点検・定期整備による予防が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0136 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

移動式クレーンの揚重計画で最も重要な考え方はどれか。
ア．吊荷重量だけでなく、作業半径・ブーム長・アウトリガー条件等に対応する定格荷重を確認する
イ．最大吊上げ能力が吊荷重量以上ならどの姿勢でも使用できる
ウ．作業半径が大きくなるほど吊上げ能力は必ず増える
エ．地盤支持力はクレーン安定に影響しない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。クレーン能力は姿勢・半径・支持条件で変化する。
イ：誤り。最大能力は特定条件での値である。
ウ：誤り。一般に作業半径増大で能力は低下する。
エ：誤り。アウトリガー反力を支持できる地盤が必要である。
総合解説：揚重機械は能力表と現場条件を照合し、安定性を確保した配置で使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0137 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：応用

クリティカル作業に使用する特殊機械が故障した。最も適切な対応はどれか。
ア．安全を確保して故障状況・復旧時間を確認し、予備機・代替工法・工程変更の可能性を検討する
イ．故障状態のまま使用を続ける
ウ．工程表を変更せず復旧を待つだけ
エ．安全装置を外して運転する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。安全と工程影響の両方を評価し代替策を検討する。
イ：誤り。二次故障や事故を招く。
ウ：誤り。クリティカル作業なら全体工期へ影響し得る。
エ：誤り。安全機能を無効化してはならない。
総合解説：重要機械については予備機・修理体制・代替工法を事前に検討しておくで工程リスクを低減できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0138 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

大型建設機械を公道で輸送する場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．車両寸法・重量を確認し、必要な通行許可や輸送経路・時間帯・誘導方法を事前に計画する
イ．最短経路であれば許可条件は確認しない
ウ．橋梁の重量制限は考慮しない
エ．積載高さは現場到着後に確認する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。共通仕様書では関係機関との打合せや輸送計画、必要な通行許可確認を求めている。
イ：誤り。法令・道路条件を満足する必要がある。
ウ：誤り。輸送安全に重要である。
エ：誤り。事前に確認する必要がある。
総合解説：建設機械の管理範囲は現場内運転だけでなく、搬入・搬出時の交通安全まで含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0139 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

バックホウが頻繁にダンプ待ちとなっている現場で、生産性改善策として最も適切なものはどれか。
ア．ダンプ台数・サイクルタイム・運搬経路を分析し、掘削機能力とのバランスを調整する
イ．バックホウだけ大型化する
ウ．待ち時間を記録しない
エ．運搬経路の渋滞は施工能力に影響しないとする

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。待ちの原因が運搬能力にある場合、機械編成を調整する必要がある。
イ：誤り。ボトルネックが運搬なら待ちが増える可能性がある。
ウ：誤り。稼働分析に必要なデータである。
エ：誤り。サイクルタイムへ直接影響する。
総合解説：生産性向上では個々の機械性能ではなく、システム全体の稼働率・待ち時間を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0140 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：基礎

住宅地に近接する工事で建設機械を選定する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．必要な施工能力を確保したうえで、低騒音型・低振動型や排出ガス対策型機械等の適用を検討する
イ．騒音・振動は機械選定と無関係である
ウ．大型機械ほど必ず騒音が小さい
エ．環境性能を優先すれば施工安全は考えなくてよい

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。施工能力・安全と環境性能を総合して選定する。
イ：誤り。周辺環境への影響に関係する。
ウ：誤り。機械ごとの性能を確認する必要がある。
エ：誤り。安全性も同時に確保する。
総合解説：建設機械管理では施工能力、燃費、騒音・振動、排出ガス、安全性等を総合的に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0141 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：応用

舗装工事でフィニッシャの故障が多発し、混合物温度低下と転圧遅延も発生している。最も適切な改善はどれか。

ア：機械故障原因・整備体制・予備機、材料供給、転圧機械との編成を一体で見直す

イ：混合物温度の記録だけ停止する

ウ：フィニッシャを故障したまま使用する

エ：転圧を省略して工程を回復する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。機械信頼性が工程と舗装品質の双方へ影響しているため総合的に改善する。

イ：誤り。品質実態を把握できなくなる。

ウ：誤り。安全・品質リスクが高い。

エ：誤り。所要品質を満足できない。

総合解説：建設機械の故障は単なる設備問題ではなく、工程遅延や材料品質低下を通じて工事品質へ波及する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0142 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：基礎

工事材料の保管として、最も適切なものはどれか。

ア：品質劣化、汚損、混同、変形、盗難等を防止できる場所・方法で保管する

イ：材料の種類に関係なく同じ場所へ山積みする

ウ：雨水や泥に触れても問題ないとする

エ：識別表示を外して保管する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。材料特性に応じて品質を維持できる保管方法を選ぶ。

イ：誤り。混入・取り違い・損傷の原因となる。

ウ：誤り。材料によって品質低下する。

エ：誤り。識別管理が必要である。

総合解説：保管は受入時の品質を使用時まで維持するための品質管理工程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0143 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

袋入りセメントの保管として、最も適切なものはどれか。
ア．湿気を避け、地面から離して雨水が侵入しない場所で保管する
イ．屋外の水たまりの上へ直接積む
ウ．開封状態で長期間放置する
エ．吸湿して固結しても無条件で使用する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。セメントは吸湿により品質低下するため乾燥状態を保つ。
イ：誤り。吸湿・固結の原因となる。
ウ：誤り。湿気や異物混入のリスクが高い。
エ：誤り。品質を確認する必要がある。
総合解説：材料保管では材料固有の劣化要因を理解し、セメントなら湿気・水分から保護する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0144 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

鉄筋の現場保管として、最も適切なものはどれか。
ア．地面から離して支持し、泥・油・過度な腐食を防ぎ、径・鋼種ごとに識別する
イ．泥土中へ直接置く
ウ．径・鋼種を混在させる
エ．油を厚く塗って付着を低下させる

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。施工時の付着性能と識別性を確保する。
イ：誤り。泥等が付着し品質へ影響する。
ウ：誤り。誤使用の原因となる。
エ：誤り。コンクリートとの付着を阻害する。
総合解説：鋼材保管は防錆だけでなく、汚損防止と識別管理も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0145 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

コンクリート用骨材の保管として、最も適切なものはどれか。
ア：粒径・種類ごとに区分し、異物混入や材料同士の混合を防止する
イ：細骨材と粗骨材を同じ山に混ぜて保管する
ウ：泥土の上に直接置き地盤土を混入させる
エ：降雨後の含水変化は配合に影響しないため確認しない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。粒度・清浄性を維持できるよう区分保管する。
イ：誤り。配合・粒度が変化する。
ウ：誤り。異物混入により品質を損なう。
エ：誤り。表面水量は配合水量補正に影響する。
総合解説：骨材保管では粒度・清浄性・含水状態を維持し、配合変動を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0146 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：応用

長尺の鋼管を現場に仮置きする場合、最も適切な方法はどれか。
ア：水平で支持力のある場所に敷材・歯止め等を設け、転がり・荷崩れを防止する
イ：傾斜地に歯止めなしで積む
ウ：通路へはみ出して保管する
エ：不安定な高積みにしてヤードを節約する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。転動・荷崩れ・地盤沈下を防ぐ保管が必要である。
イ：誤り。転がり事故の危険がある。
ウ：誤り。第三者・作業員の通行を障害する。
エ：誤り。荷崩れリスクが高い。
総合解説：重量物・長尺物は地盤支持力、積み方、歯止め、荷役方法まで考えて保管する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0147 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：基礎

供用中の公共道路付近で資材を保管する場合、最も適切なものはどれか。
ア．公衆の交通が自由かつ安全に通行する支障となる場所には材料・設備を保管しない
イ．夜間だけなら車道上へ無許可で資材を残置する
ウ．歩道幅を完全に塞いでも工事区域なら問題ない
エ．作業終了後も一般交通用路面へ障害物を残す

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。令和8年度共通仕様書は公衆交通に支障となる場所への材料・設備保管を禁止している。
イ：誤り。必要な許可・安全措置が必要である。
ウ：誤り。一般交通の安全確保が必要である。
エ：誤り。許可された常設作業帯等を除き撤去が必要である。
総合解説：資材置場は現場内の都合だけでなく、第三者交通や緊急動線を妨げない位置とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0148 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

狭い現場へ大型資材を搬入する計画として、最も適切なものはどれか。
ア．荷卸し場所・クレーン・誘導員・場内動線・交通規制を事前に調整し、受入可能な時間帯に搬入する
イ．到着時刻を調整せず全車両を同時に呼ぶ
ウ．荷卸し設備が空くまで公道上で長時間待機させる
エ．搬入口の高さ・幅は確認しない

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。搬入と荷卸し能力を同期させることで渋滞・待ち・事故を防ぐ。
イ：誤り。場内混雑と公道渋滞を招く。
ウ：誤り。交通障害を生じる可能性がある。
エ：誤り。車両・資材寸法との整合が必要である。
総合解説：資材搬入は工程・物流・安全の管理であり、ジャストインタイムな受入調整が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0149 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

保管期間により品質低下する可能性がある材料の在庫管理として、一般に適切な考え方はどれか。
ア．使用期限・受入日・ロットを管理し、品質条件を満たす範囲で先に受け入れた材料から使用する
イ．最も新しい材料だけを先に使い古い材料を長期保管する
ウ．受入日を記録しない
エ．期限を過ぎても外観が同じなら無条件で使用する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。在庫滞留による品質劣化を防ぐ。
イ：誤り。古い在庫がさらに長期化する。
ウ：誤り。保管期間を管理できない。
エ：誤り。材料ごとの品質確認が必要である。
総合解説：在庫管理では数量だけでなく、ロット・受入日・使用期限等を管理して品質を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0150 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：応用

橋梁工事で高力ボルト、鋼材、支承が同時期に大量搬入される。ヤードが狭く、支承は据付けまで1か月保管する。最も適切な管理はどれか。
ア．搬入順序、荷卸し設備、品目別保管場所、識別、防水・防錆、使用順序を工程と連動させて計画する
イ．全材料を同じ場所へ混載し、使用時に探す
ウ．支承を屋外に無防護で放置する
エ．搬入数量が多いほど識別表示は省略する

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。物流・保管・品質・工程を一体で管理する必要がある。
イ：誤り。取り違え・損傷・作業効率低下を招く。
ウ：誤り。材料特性に応じた保護が必要である。
エ：誤り。大量搬入ほど識別管理が重要となる。
総合解説：資材管理は受入れで終わらず、保管・搬入・荷役・使用・記録まで一連の流れとして管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20